

米原市民意識調査

【平成 29 年度報告書】

平成 29 年 9 月



米原市

目 次

I	調査概要	1
	1. 調査概要	2
	2. 報告書の見方	2
II	調査結果	3
	あなたご自身のことについて、お伺いします。	4
	まちづくり全般についてお伺いします。	10
	「1 健やかで安心して暮らせる支え合いのまちづくり」に関する設問です。	16
	「2 とともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり」に関する設問です。	20
	「3 水清く緑あふれる自然と共生する安全なまちづくり」に関する設問です。	31
	「4 地域の魅力と地の利を生かした活力創出のまちづくり」に関する設問です。	37
	「5 心地よく暮らせるにぎわいと交流を支えるまちづくり」に関する設問です。	38
	「6 まちづくりを進めるための基盤」に関する設問です。	39

I 調査概要

1. 調査概要

【調査の目的】

米原市のまちづくりや都市経営などについて市民の意見を伺い、市民の市政に対する評価、これからのまちづくりに対するニーズや意識を把握し、市政運営に当たっての基礎的資料を得ることを目的にアンケート調査を実施しました。

【調査の概要】

調査区域：米原市全域

調査対象：18歳以上の市民から2,000人を無作為抽出

調査時期：平成29年7月5日から7月24日まで

配布数：2,000票

回収数：1,126票

回収率：56.3%

※回収率向上の取組として、調査票送付から一週間後に案内ハガキを送付

2. 報告書の見方

- 集計に当たっては、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合があります。このことは、本報告書内の文章、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100%を超える場合があります。
- グラフまたは図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていないもの、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフのN数（number of case）は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- グラフ中の回答割合について、グラフが煩雑になる場合は省略しています。
- 本文中の「ポイント」とは、「%」の差を表しています。

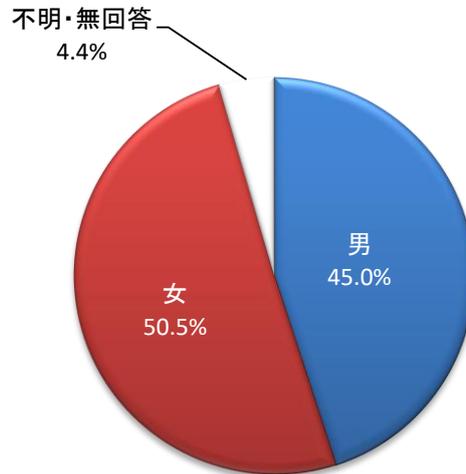
II 調查結果

あなたご自身のことについて、お伺いします。

問1 あなたの性別は。〈〇は1つ〉

回答者の性別は、「男性」が45.0%、「女性」が50.5%となっています。

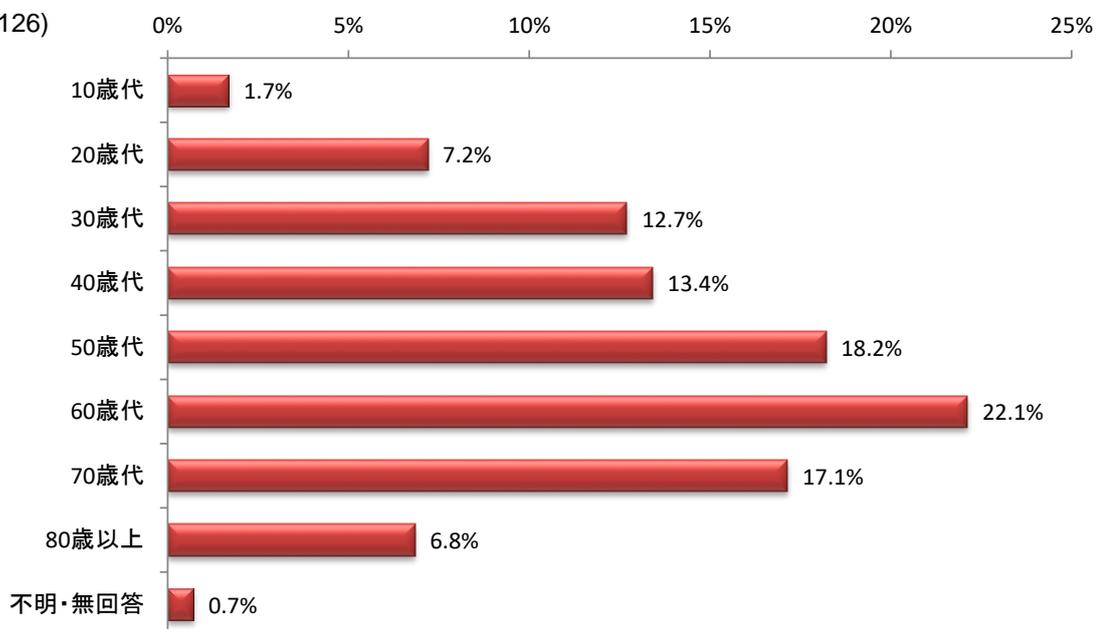
(N=1,126)



問2 あなたの年齢は。〈〇は1つ〉

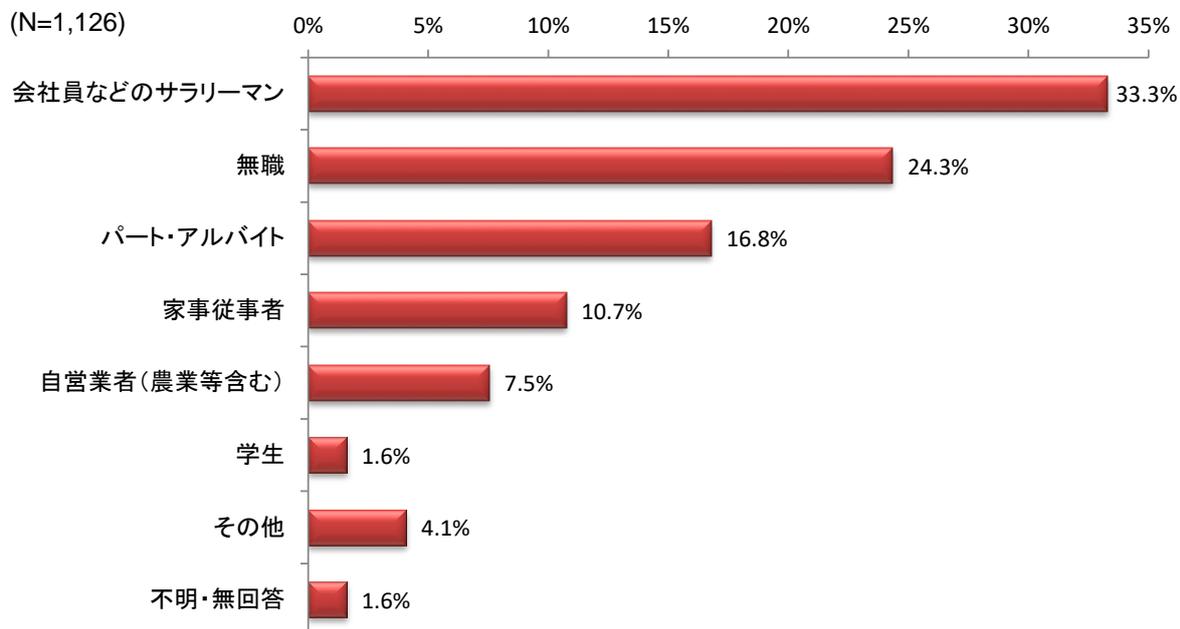
回答者の年代は、「60歳代」が22.1%と最も高く、次いで「50歳代」が18.2%となっています。

(N=1,126)



問3 あなたのご職業は何ですか。〈〇は1つ〉

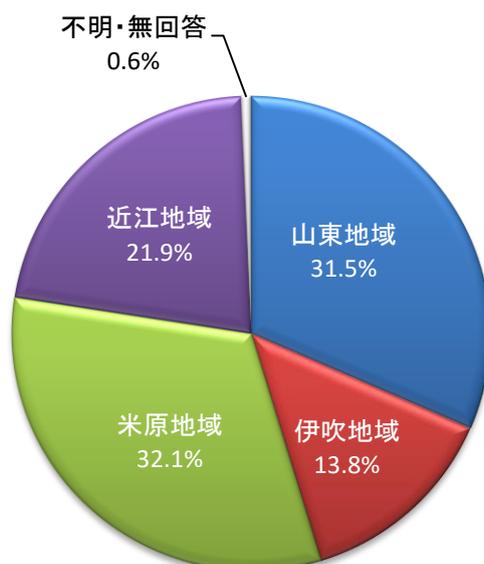
回答者の職業は、「会社員などのサラリーマン」が33.3%と最も高く、次いで「無職」が24.3%となっています。



問4 あなたのお住まいはどちらですか。(〇は1つ)

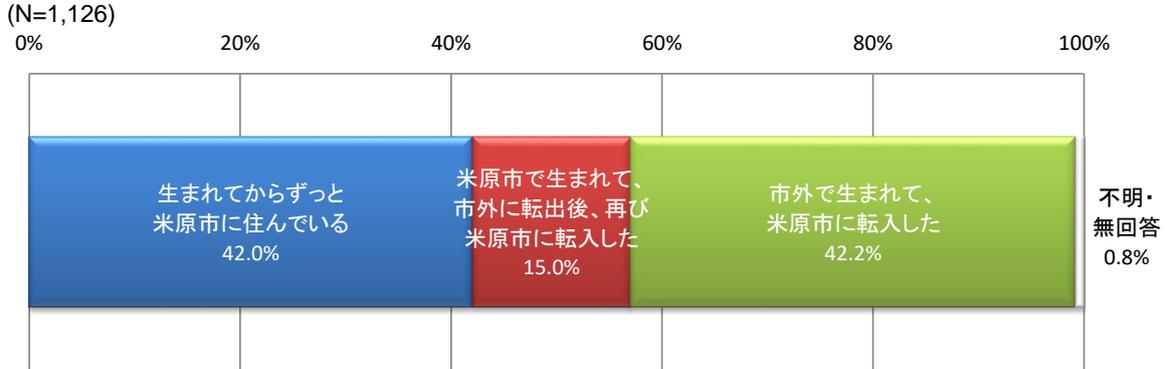
回答者の居住地域は、「米原地域」が32.1%と最も高く、次いで「山東地域」が31.5%となっています。

(N=1,126)



問5 あなたはいつから米原市にお住まいですか。(〇は1つ)

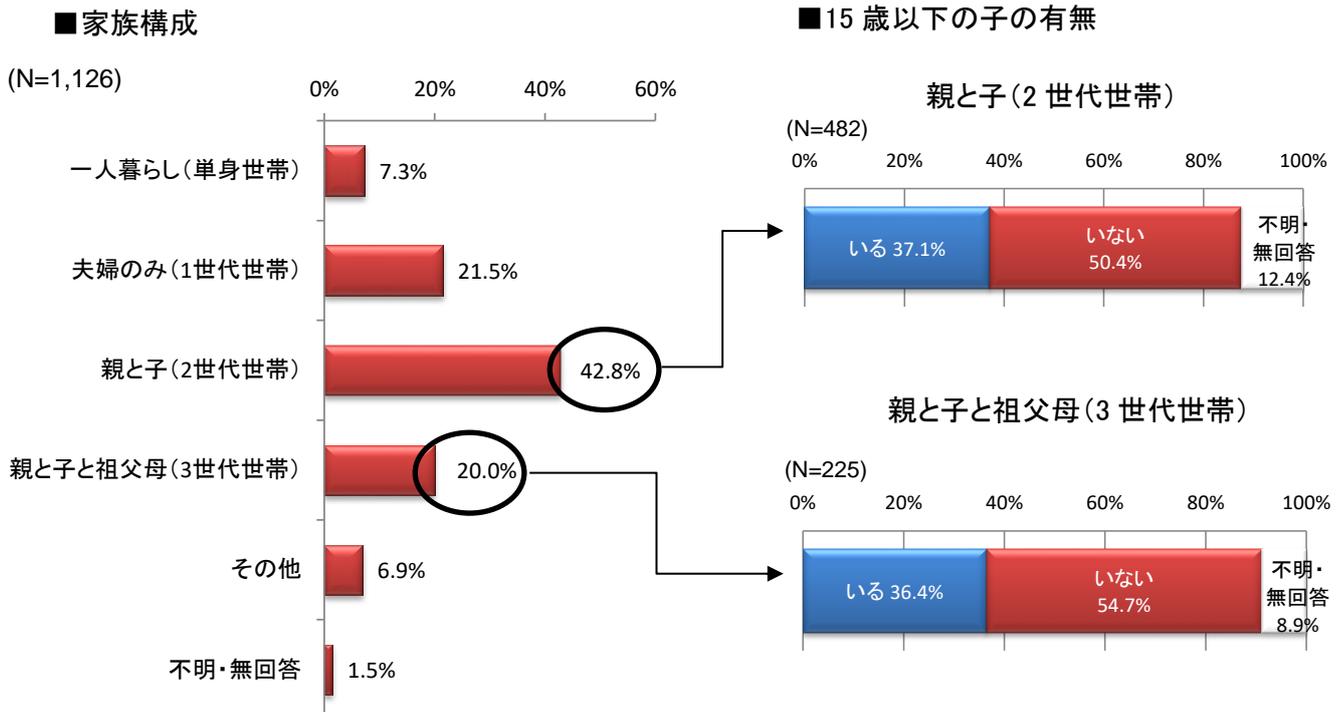
米原市にいつから住んでいるかについて見てみると、「市外で生まれて米原市に転入した」が42.2%と最も高く、次いで「生まれてからずっと米原市に住んでいる」が42.0%となっています。



問6 あなたのご家族の構成はどれですか。また、「親と子(2世代世帯)」、「親と子と祖父母(3世代世帯)」と答えられた方は15歳以下の子どもが「いる」、「いない」についてもお答えください。(〇は1つ)

家族構成については、「親と子(2世代世帯)」が42.8%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯(1世代世帯)」が21.5%、「親と子と祖父母(3世代世帯)」が20.0%となっています。

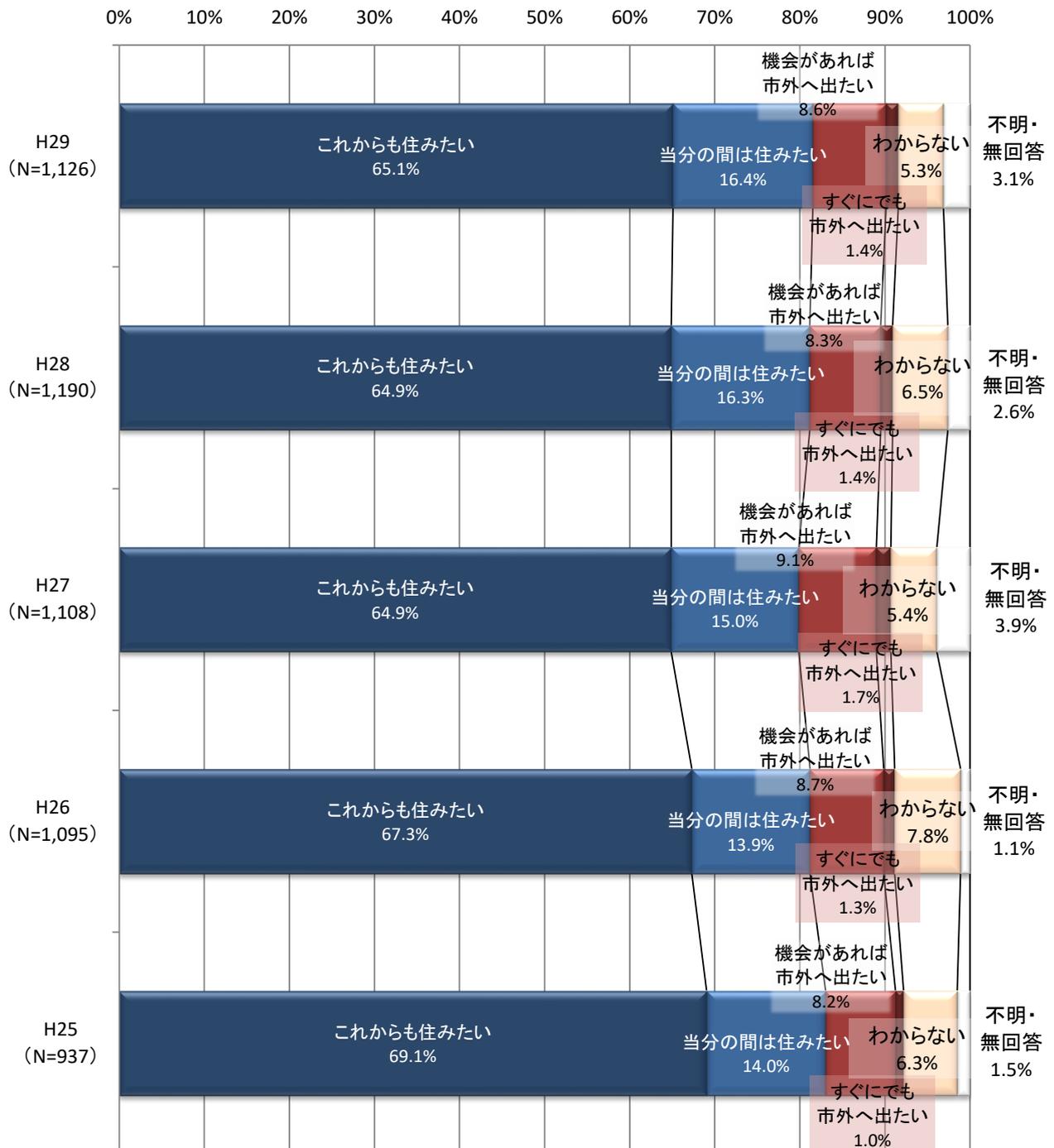
家族構成で「親と子(2世代世帯)」と答えた方のうち、15歳以下の子どもについては「いない」が50.4%となっています。また「親と子と祖父母(3世代世帯)」と答えた方のうち、15歳以下の子どもについては「いない」が54.7%となっています。



問7 あなたは、これからも米原市に住みたいと思いますか。〈〇は1つ〉

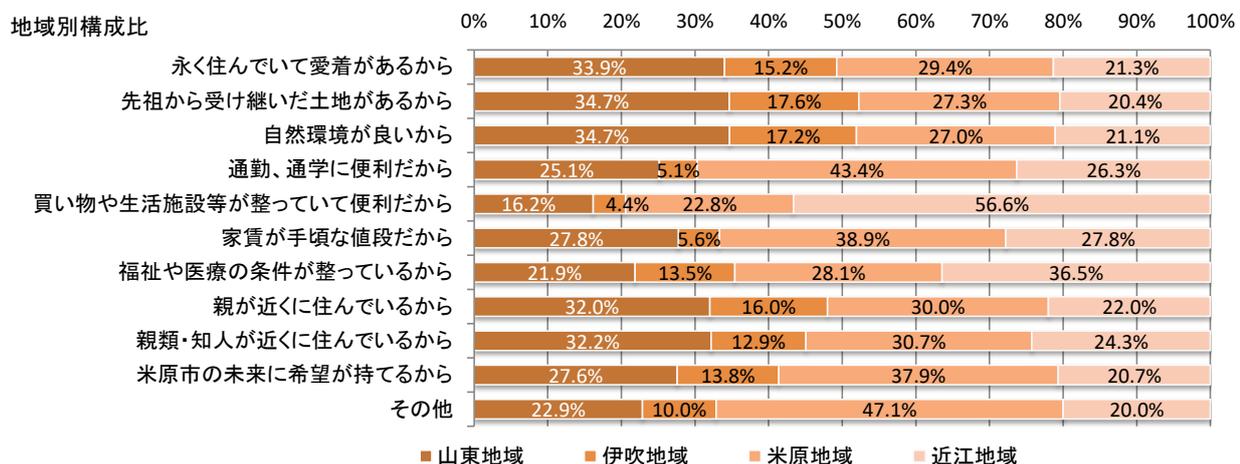
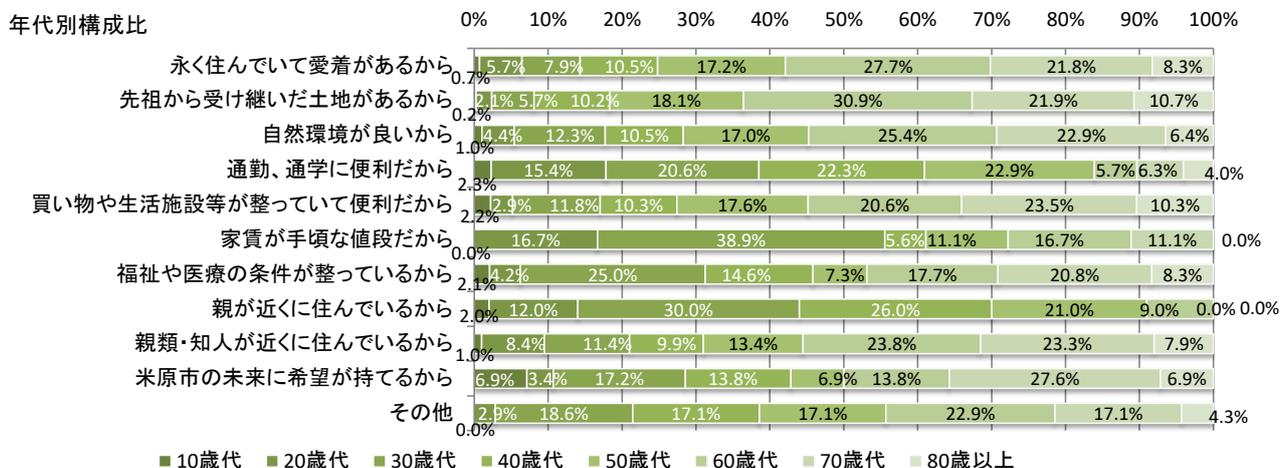
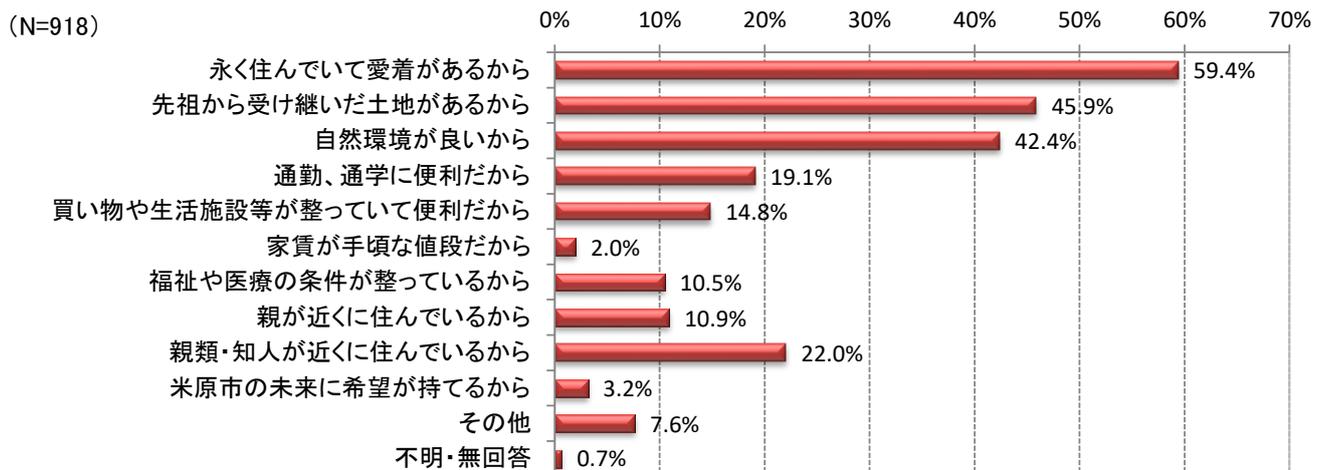
これからも米原市に住みたいと思いますかの設問については、「これからも住みたい」が65.1%と最も高く、次ぐ「当分の間は住みたい」の16.4%と合わせて8割強の市民が米原市への定住を希望しています。

今までに実施した調査と比較したところ、大きな変動は無く、例年約8割の市民が米原市への定住を希望しています。



付問1 【問7で「これからも住みたい」、「当分の間は住みたい」と答えられた方】
今後も住みたい理由は何ですか。〈〇は4つまで〉

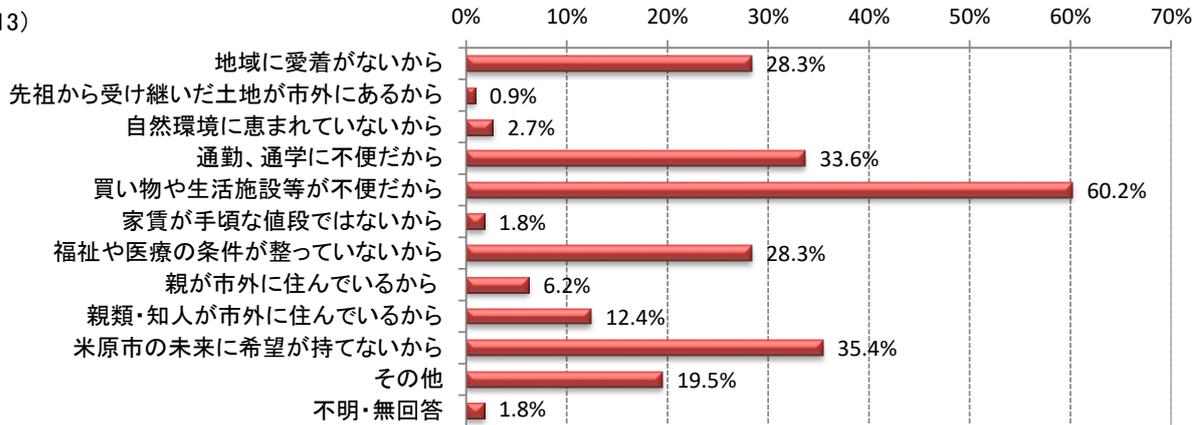
「これからも住みたい」または「当分の間は住みたい」と答えられた方の理由について見てみると、「永く住んでいて愛着があるから」が59.4%と最も高く、次いで「先祖から受け継いだ土地があるから」が45.9%となっています。また、「その他」の具体的な理由としては、「交通の便が良いから」「家を建てたから」などが挙がっていました。年代別でみると、高齢な人ほど土地や人への愛着が強く、若いほど通勤・通学の便の良さや手頃な家賃等の合理的な理由が強いことが分かります。地域別では、概ね回答者の構成比（問4）と符合しているものの、「通勤、通学に便利だから」では米原地域が、「買い物や生活施設等が整っていて便利だから」では近江地域が、それぞれ多くなっています。



付問2 【問7で「機会があれば市外へ出たい」、「すぐにでも市外へ出たい」と答えられた方】あなたが「市外へ出たい」と思う理由は何ですか。〈〇は4つまで〉

「市外へ出たい」と答えた方の理由について見てみると、「買物や生活施設等が不便だから」が60.2%と最も高く、次いで「米原市の未来に希望が持てないから」が35.4%となっています。また、「その他」の具体的な理由としては、「交通機関の整備への不満」、「地域の行事が大変」などの理由が挙がっていました。

(N=113)

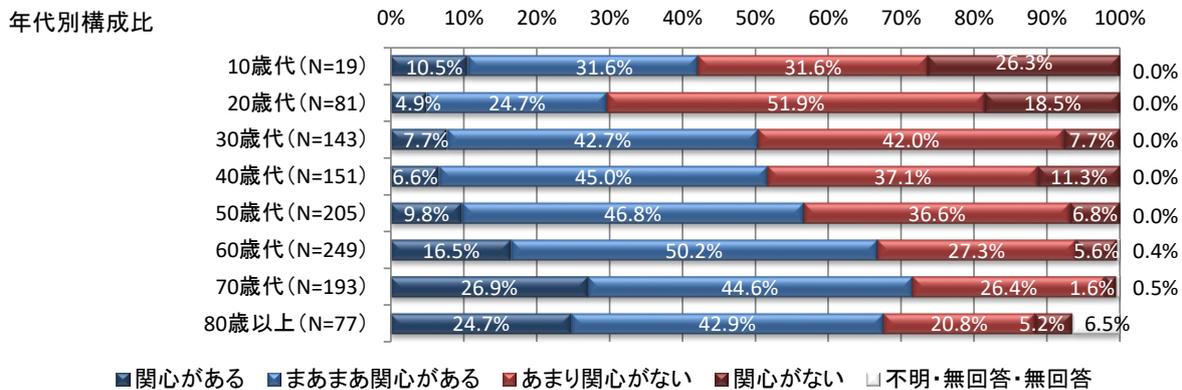
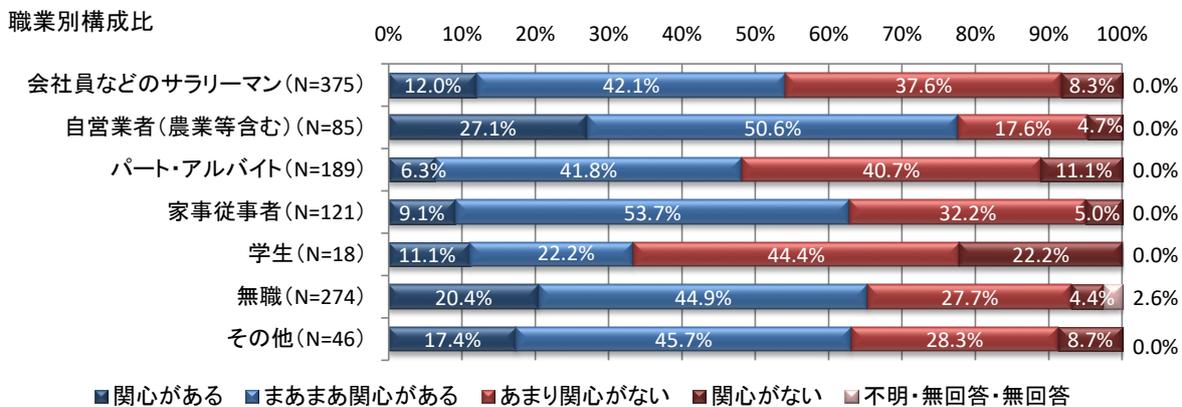
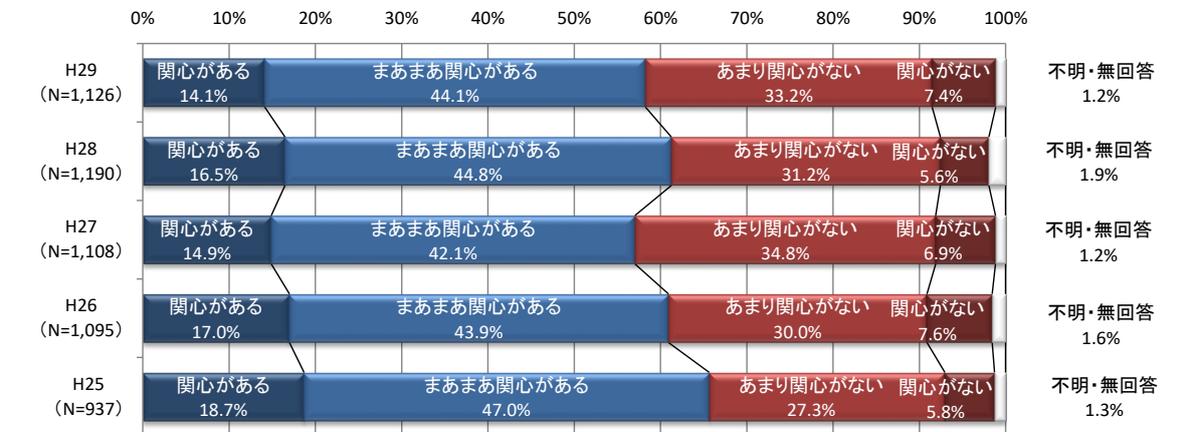


まちづくり全般についてお伺いします。

問8 あなたは、市政に関心をお持ちですか。〈〇は1つ〉

市政への関心については、「関心がある」、「まあまあ関心がある」を合わせると6割近くの市民が市政に関心を持っています。経年変化をみると前年度は上昇しましたが、今年度はやや減少しています。

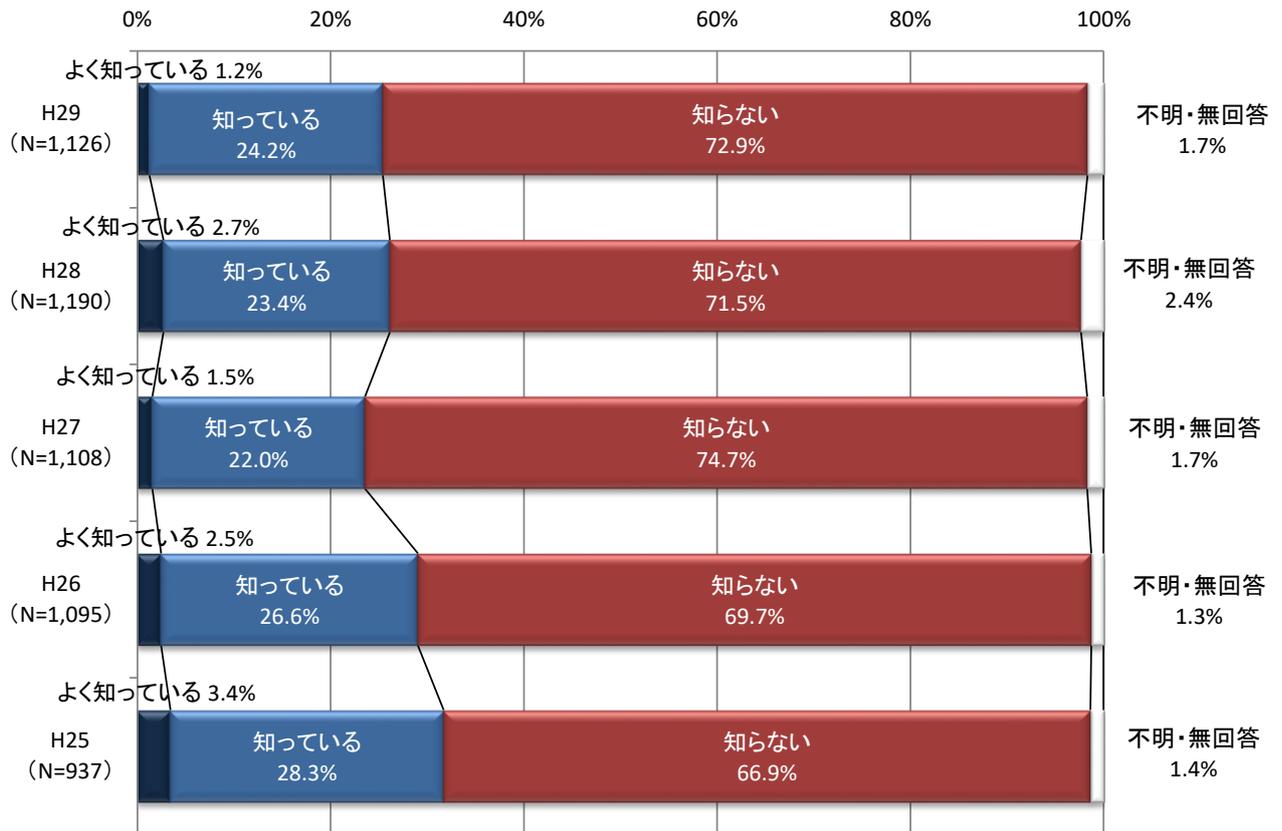
また、職業別構成比でみると「自営業者（農業等含む）」と「家事従事者」、「無職」で市政に関心を持っている方の割合が高くなっています。「学生」では「あまり関心がない」、「関心がない」の合計が7割弱となっていますが、市政に関心を持っている割合が3割強で、前年（「関心がある」＋「まあまあ関心がある」が1割）と比較して大幅に上昇しています。年代別構成比では、「関心がある」と回答する人は年代が上がるにつれて増加する傾向にありますが、10歳代で「まあまあ関心がある」が31.6%と高くなっています。



問9 あなたは、市のまちづくりの基本ルールである「米原市自治基本条例」をご存知ですか。〈〇は1つ〉

「米原市自治基本条例」の認知度については、「よく知っている」、「知っている」を合わせると25.4%となっており、昨年度よりやや低くなっています。

これまでに実施した調査でも7割近くの市民が「知らない」状況が続いており、引き続き啓発が必要です。



問 10 市では、次に示す 33 項目の施策に取り組んでいます。

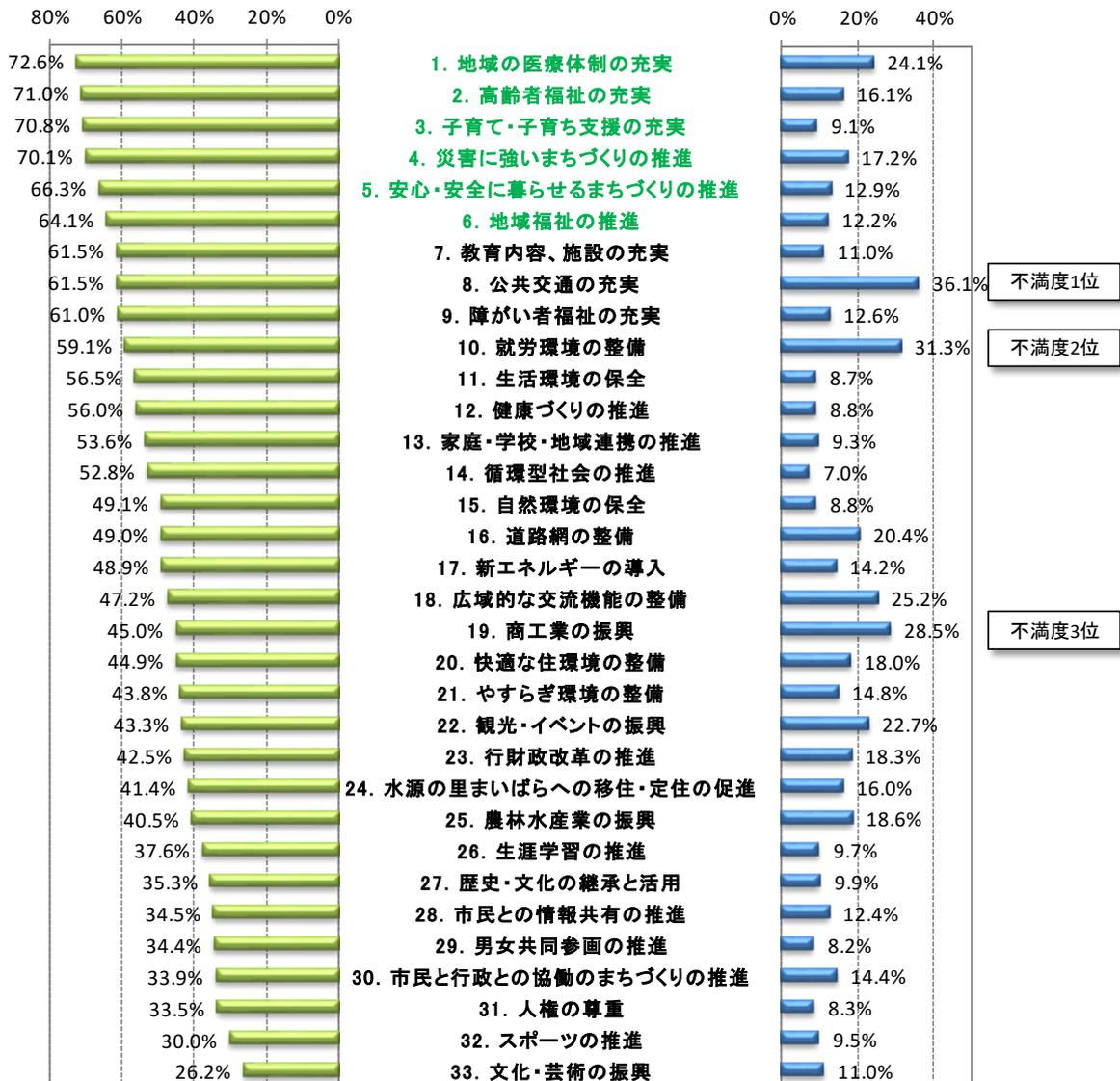
あなたは、次の各項目について、現状をどのように評価し、今後取り組むことがどのくらい重要だとお考えですか。あなたのお考えに一番近い番号を「1～5」の中からそれぞれ 1 つずつ選んで、番号に○をつけてください。難しく考えずに、イメージでお答えください。〈○は満足度と重要度に 1 つずつ、計 2 つ〉

重要度の上位にランクされた項目については、平成 29 年度より第 2 次米原市総合計画がスタートしたことに伴い名称の変更があるものの、「地域医療」「高齢者」「子育て」「災害」等について、昨年度調査と同様に重要度が高いものと認識されていることから、今後も継続して取組を進める必要があります。

不満度では、「8. 公共交通の充実」、「10. 就労環境の整備」、「19. 商工業の振興」の順に高く、快適で安心して利用できる公共交通の確保や企業誘致等による多様な雇用機会の創出、交通の要衝である立地条件や地域資源を活かした商工業の活性化に、今後さらに力を入れていくことが求められています。

重要度(重要+どちらかといえば重要)

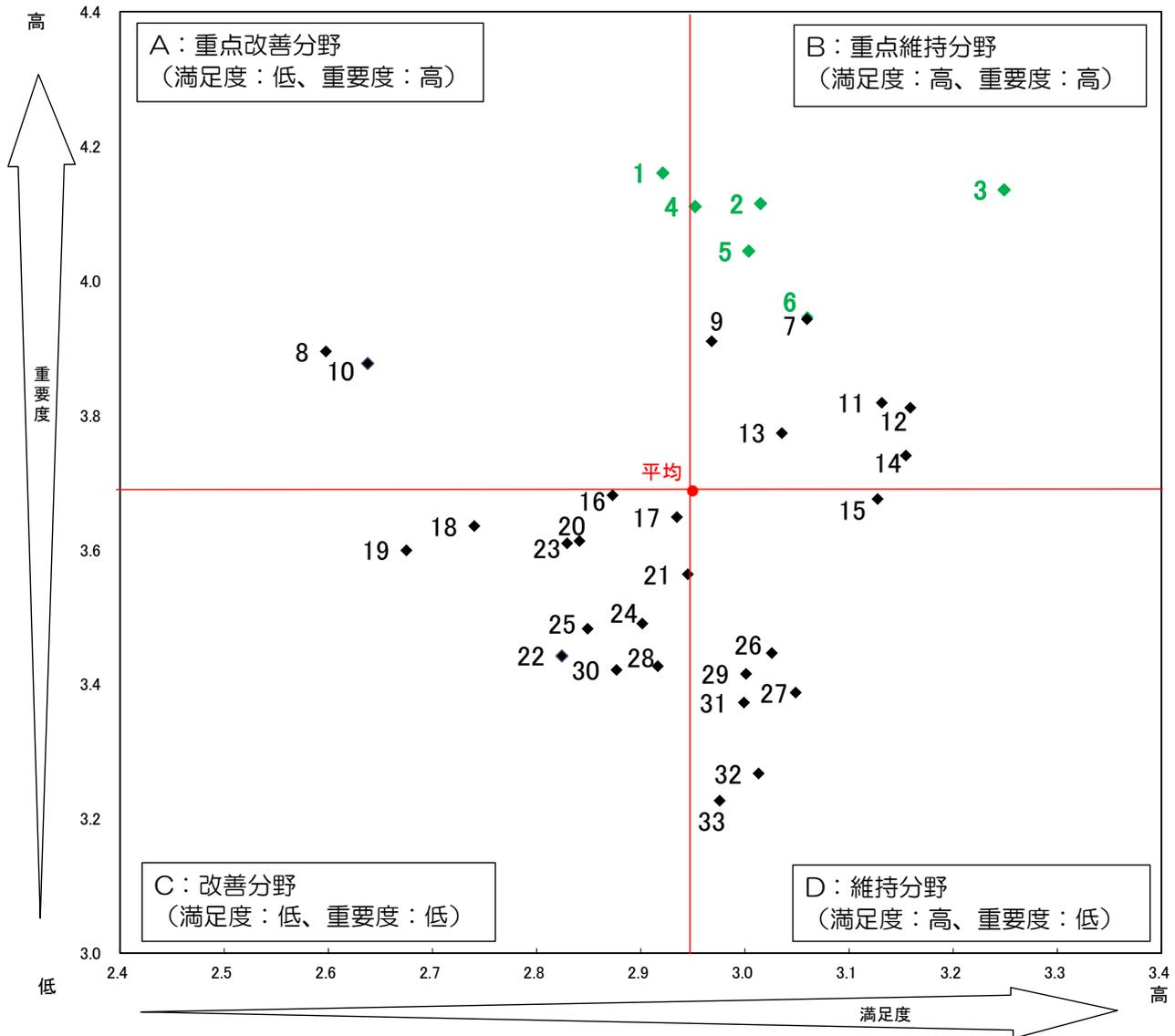
不満度(不満+どちらかといえば不満)



◆満足度・重要度の散布図

それぞれの施策の満足度・重要度を得点化し、平均を算出したところ、以下のような散布状況となっています（施策名については、12ページにあるグラフの該当する番号の施策名を参照のこと）。

特に「8. 公共交通の充実」、「10. 就労環境の整備」といった満足度が低く、重要度が高いAの領域にある施策について、重点改善分野として取り組んでいく必要があります。



【得点化の手順】

満足度	→	得点
満足	→	5点
どちらかといえば満足	→	4点
普通	→	3点
どちらかといえば不満	→	2点
不満	→	1点

重要度	→	得点
重要である	→	5点
どちらかといえば重要である	→	4点
普通	→	3点
どちらかといえば重要でない	→	2点
重要でない	→	1点

※不明・無回答については計算の対象外

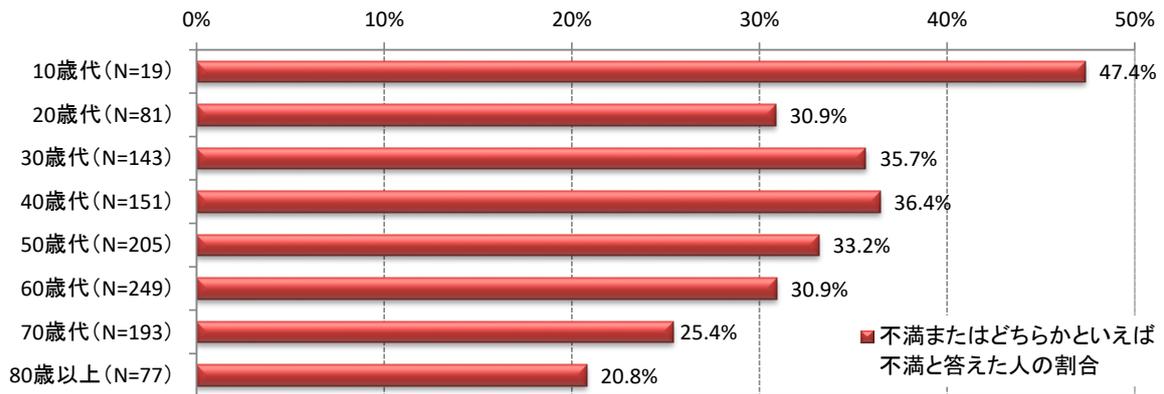
◆年代別

不満度の上位3つについて年代別に見てみると、公共交通の充実（不満度1位）については、すべての年代で3割弱以上と高く、特に40～50歳代では約4割の方が不満を抱えていることがわかります。就労環境の整備（不満度2位）、商工業の振興（不満度3位）については、特に10歳代不満度が高く、また30～60歳代についても3割を超え、比較的不満度が高くなっています。

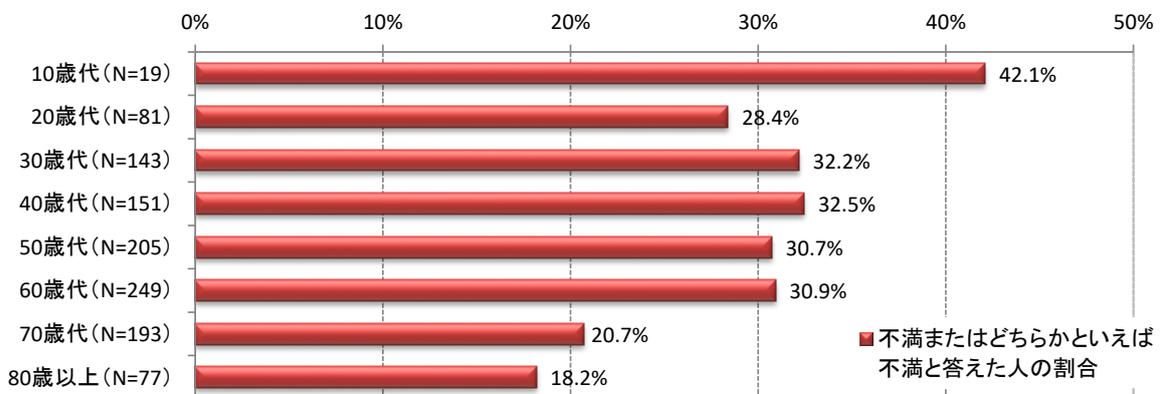
8. 公共交通の充実(不満度1位) 年代別不満度



10. 就労環境の整備(不満度2位) 年代別不満度



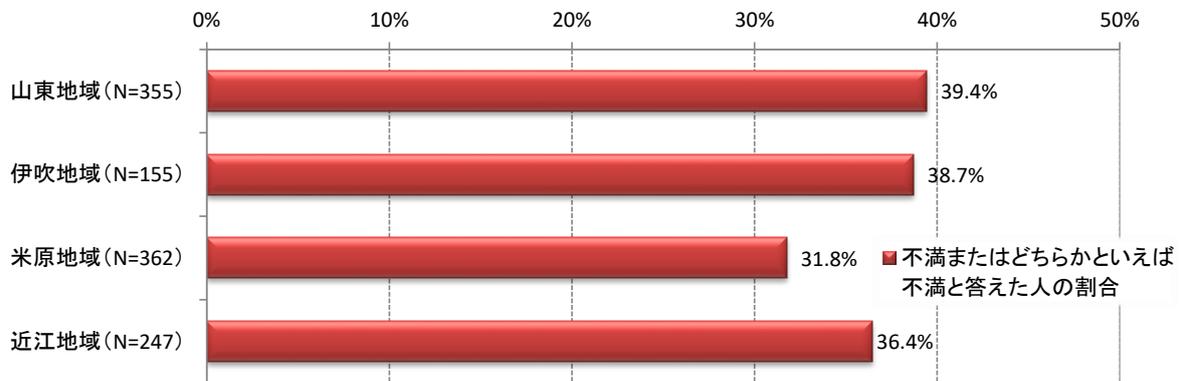
19. 商工業の振興(不満度3位) 年代別不満度



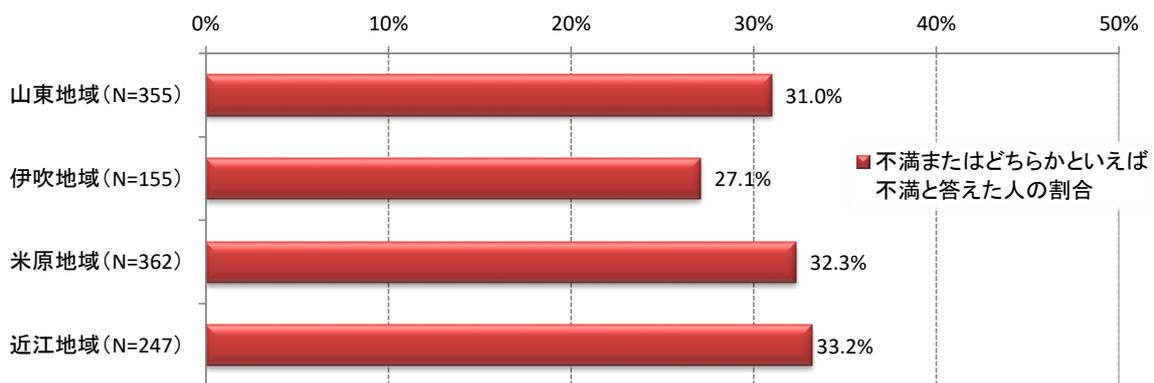
◆地域別

不満度の上位3つについて地域別に見てみると、「公共交通の充実」では米原地域の不満度が比較的低く、「就労環境の整備」、「商工業の振興」では伊吹地域が比較的低くなっており、地域差があることがわかります。また、「商工業の振興」では、米原地域で比較的不満度が高くなっています。

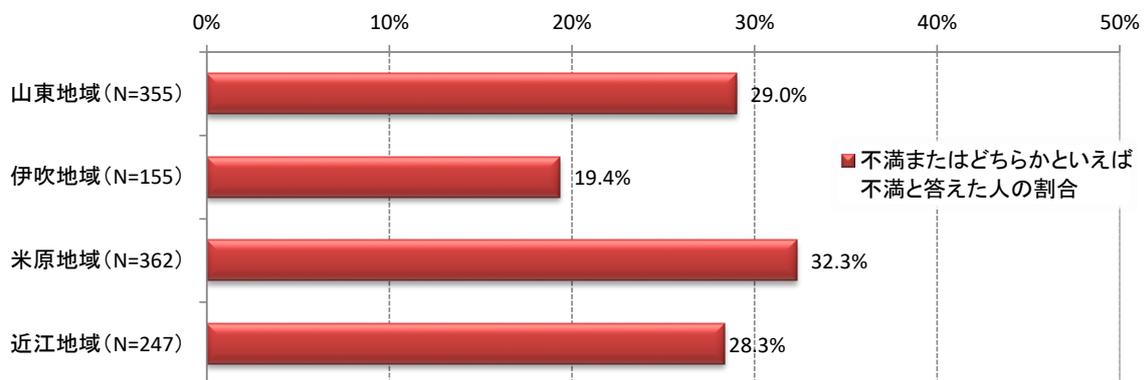
8. 公共交通の充実(不満度1位) 地域別不満度



10. 就労環境の整備(不満度2位) 地域別不満度



19. 商工業の振興(不満度3位) 地域別不満度

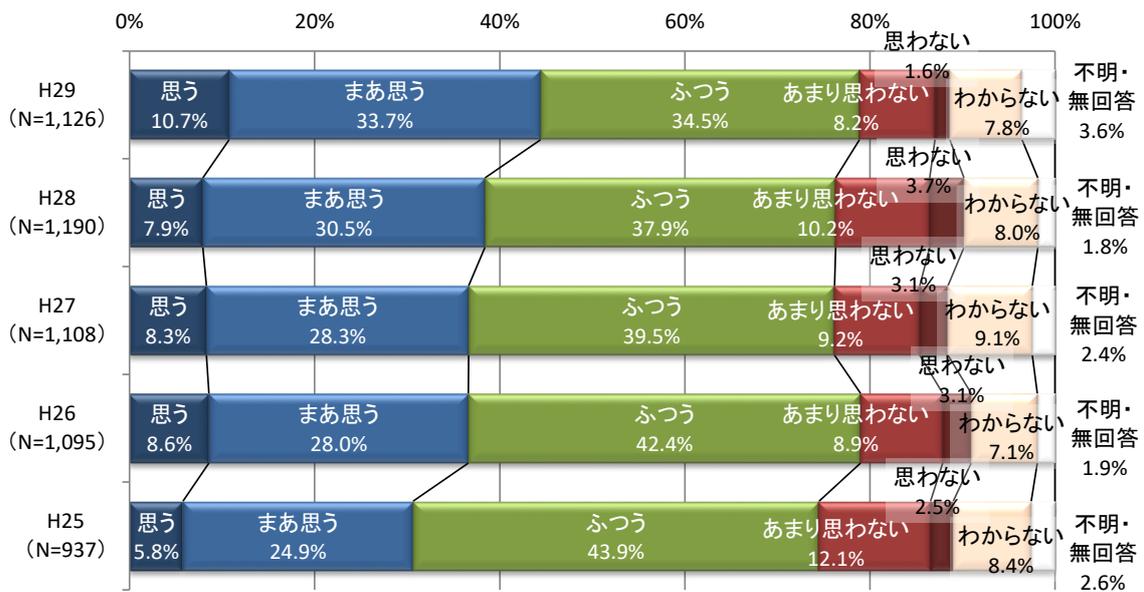


「1 健やかで安心して暮らせる支え合いのまちづくり」に関する設問です。

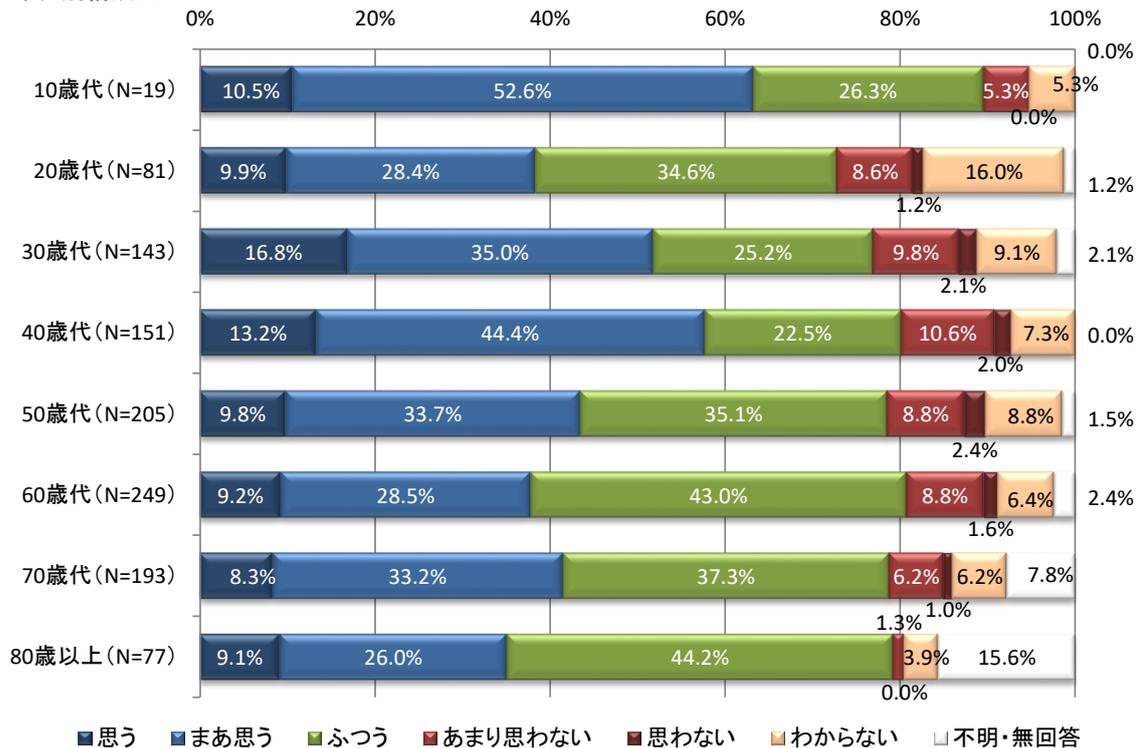
問 11 あなたは、米原市を子育てしやすいまちだと思いますか。〈〇は 1 つ〉

米原市を子育てしやすいまちだと思うかについて見てみると、「ふつう」の割合が 34.5%と最も多く、「思う」、「まあ思う」を合わせた『思う』が 44.4%に対して、「あまり思わない」、「思わない」を合わせた『思わない』が 9.8%となっており、昨年度より、子育てしやすいという回答が上昇しています。

また年代別構成比では、特に 10 歳代、30～40 歳代で「思う」、「まあ思う」との回答が多く、半数以上となっています。



年代別構成比

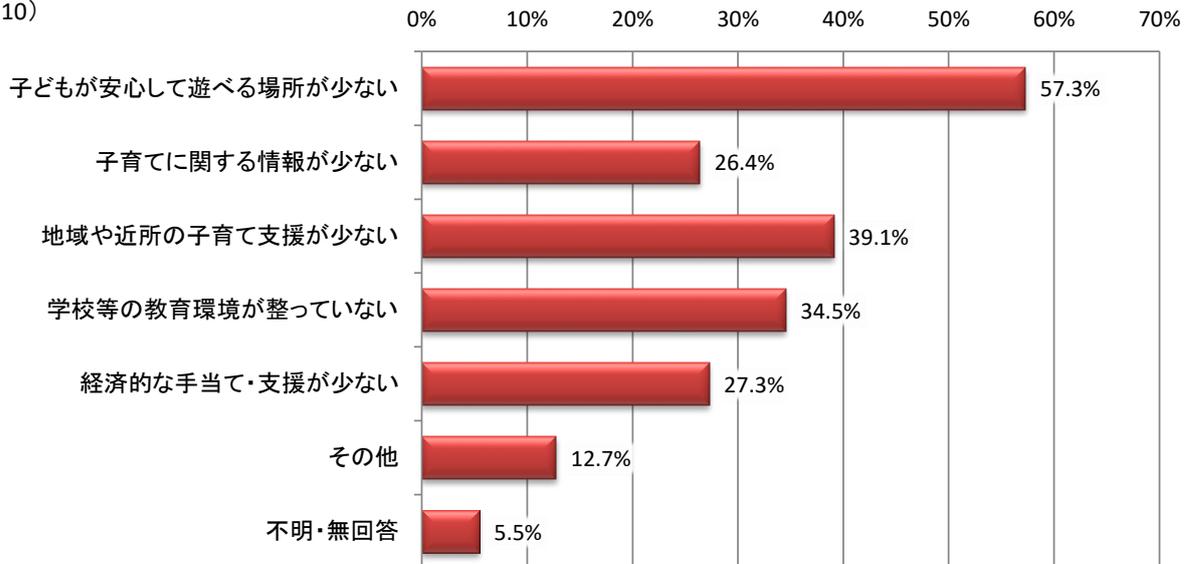


付問1 【問11で「あまり思わない」、「思わない」と答えられた方】子育てしにくいところはどんなところですか。〈あてはまるものすべてに○〉

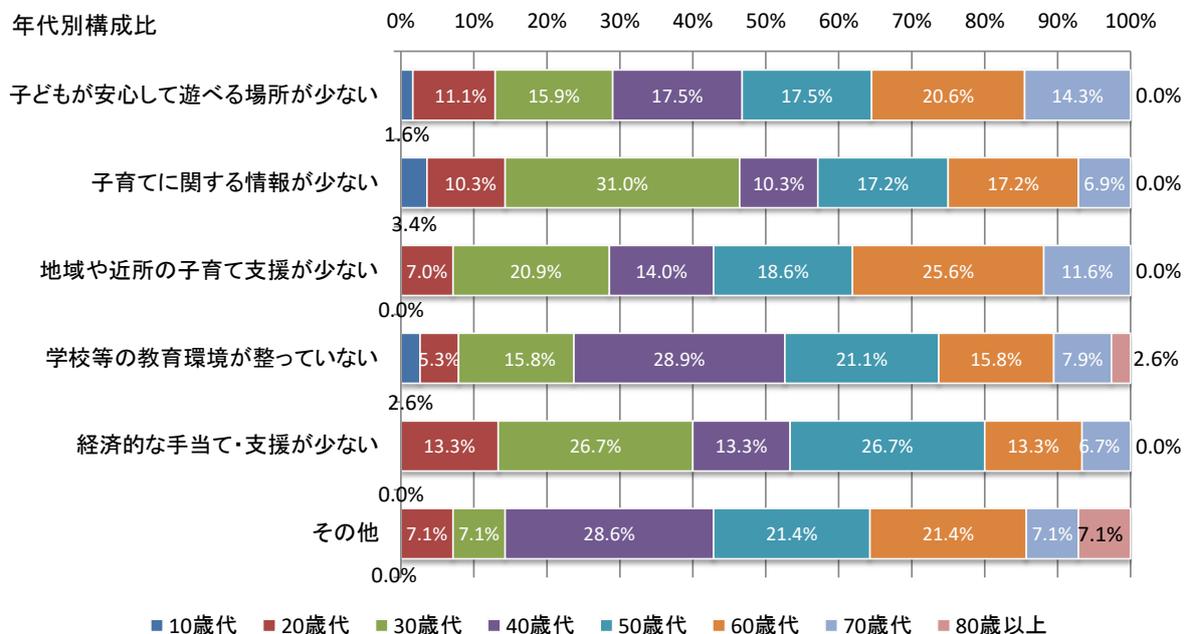
「あまり思わない」または「思わない」と答えられた方の、その理由について見てみると、「子どもが安心して遊べる場所が少ない」が57.3%と最も多く、次いで「地域や近所の子育て支援が少ない」が39.1%、「学校等の教育環境が整っていない」が34.5%となっています。

また、年代別構成比でみると「子育てに関する情報が少ない」については30歳代、「経済的な手当て・支援が少ない」については30歳代と50歳代で選択している人が多いことが分かります。また、「学校等の教育環境が整っていない」では40歳代で多くなっています。

(N=110)



年代別構成比



問 12 あなたは、「ロコモティブシンドローム」をご存知ですか。〈〇は1つ〉

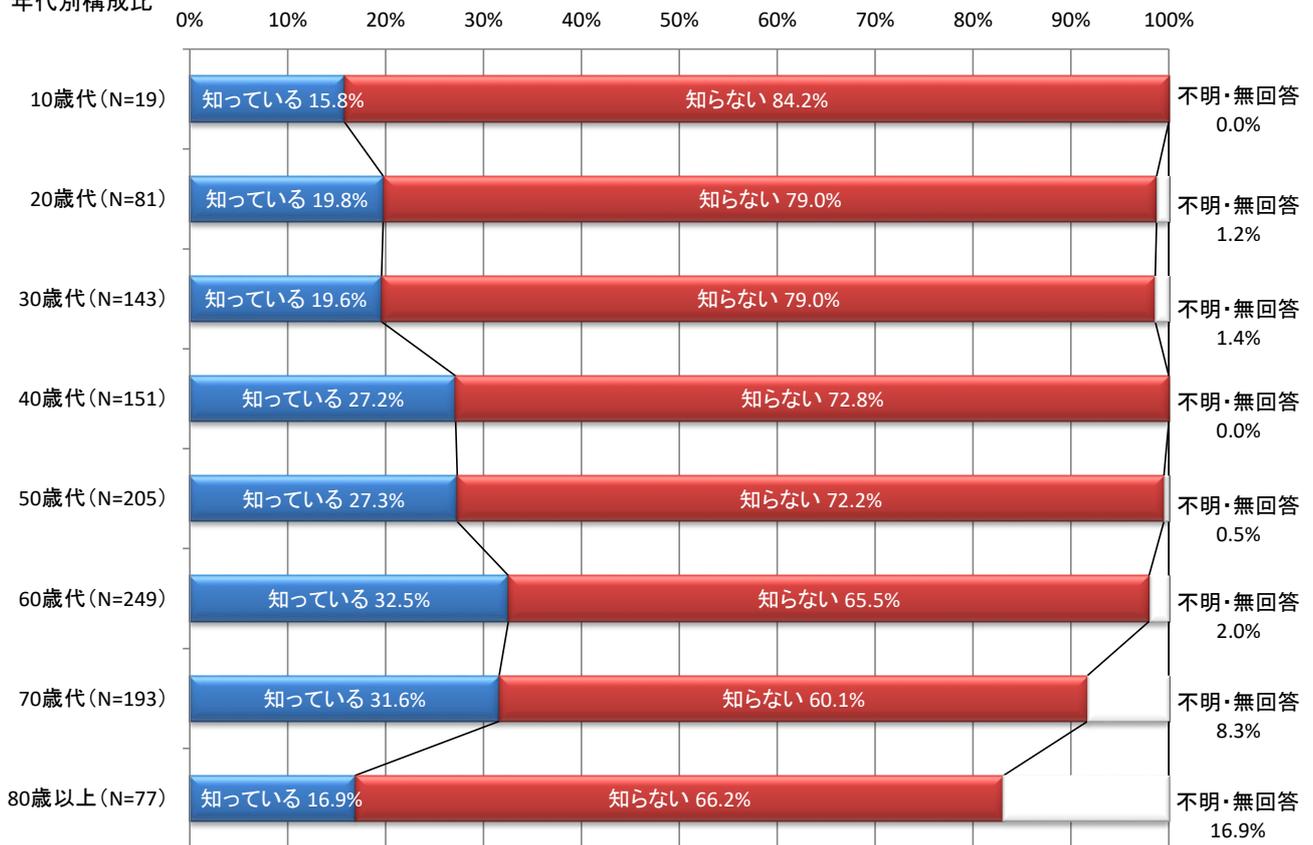
「ロコモティブシンドローム」(※加齢や運動不足から生じる関節や筋肉等の障がいのため、介護が必要となる危険性が高くなった状態)の認知度については、「知っている」が27.1%、「知らない」が69.5%となっています。

また、年代別構成比で見ると、年代が上がるほど認知度が上昇する傾向が見られるものの、80歳以上では16.9%と認知度が低くなっています。

(N=1,126)



年代別構成比



問 13 あなたは、「COPD（慢性閉塞性肺疾患）」をご存知ですか。〈〇は1つ〉

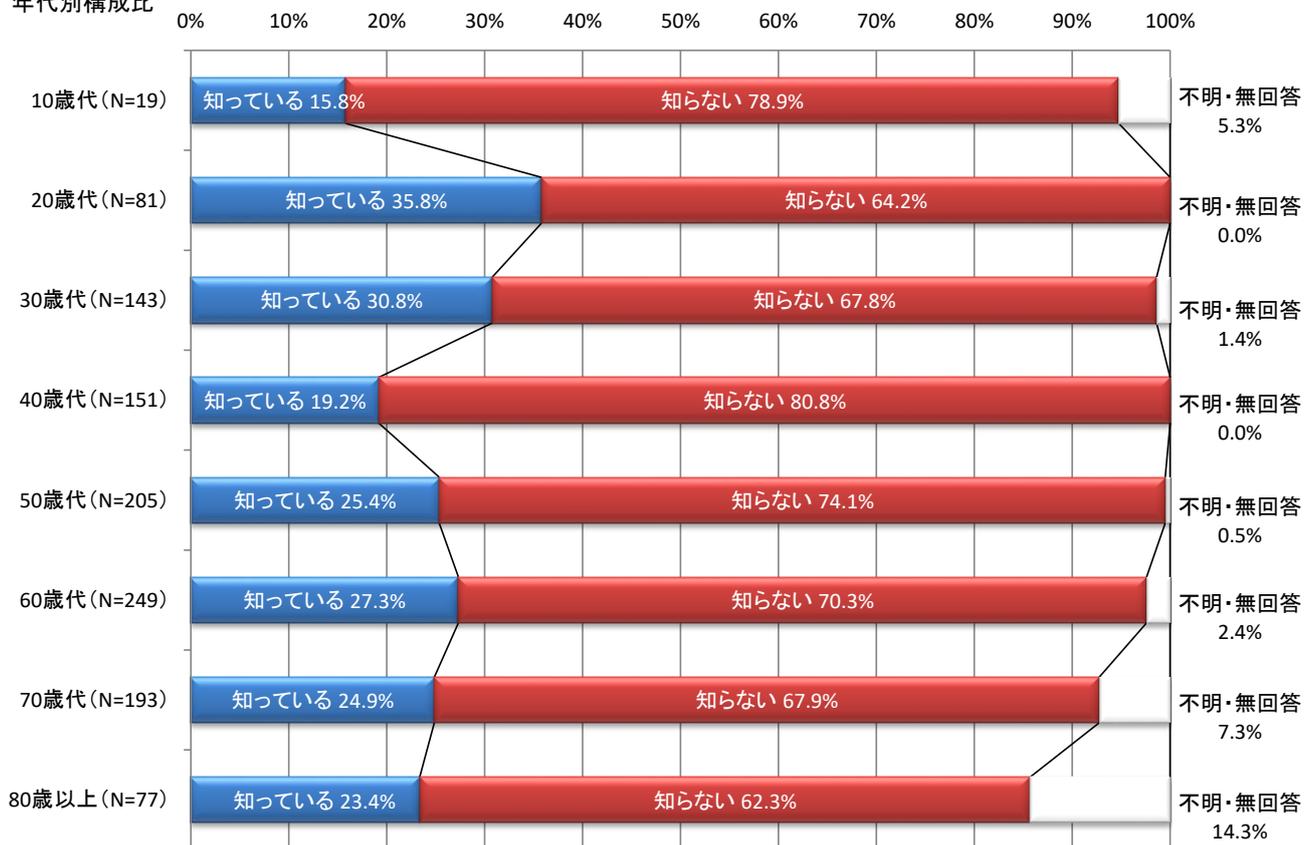
「COPD（慢性閉塞性肺疾患）」（※たばこが原因の一つとされる肺の炎症疾患の総称）の認知度については、「知っている」が25.9%、「知らない」が71.0%となっています。

また、年代別構成比で見ると、20歳代で比較的認知度が高いものの、10歳代、40歳代の認知度は2割以下に留まっています。

(N=1,126)



年代別構成比



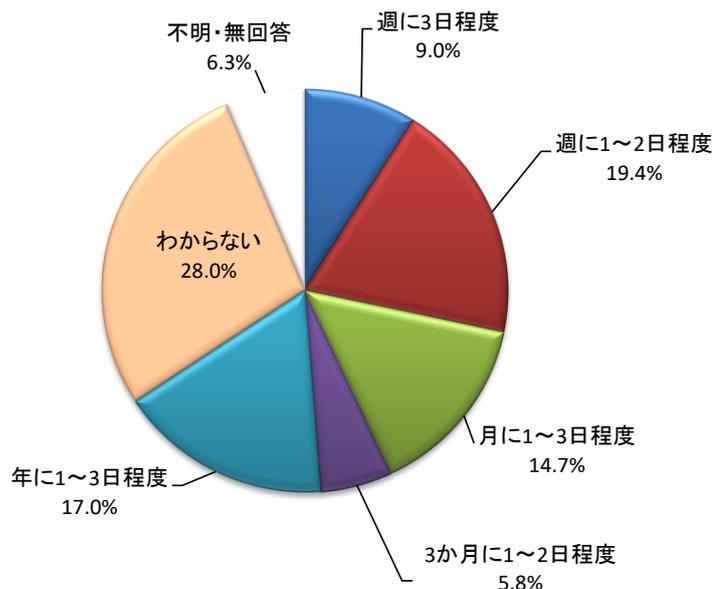
「2 ともに学び輝き合う人と文化を育むまちづくり」に関する設問です。

問 14 平均して、どれくらいの頻度で運動・スポーツを行っていますか。〈〇は1つ〉

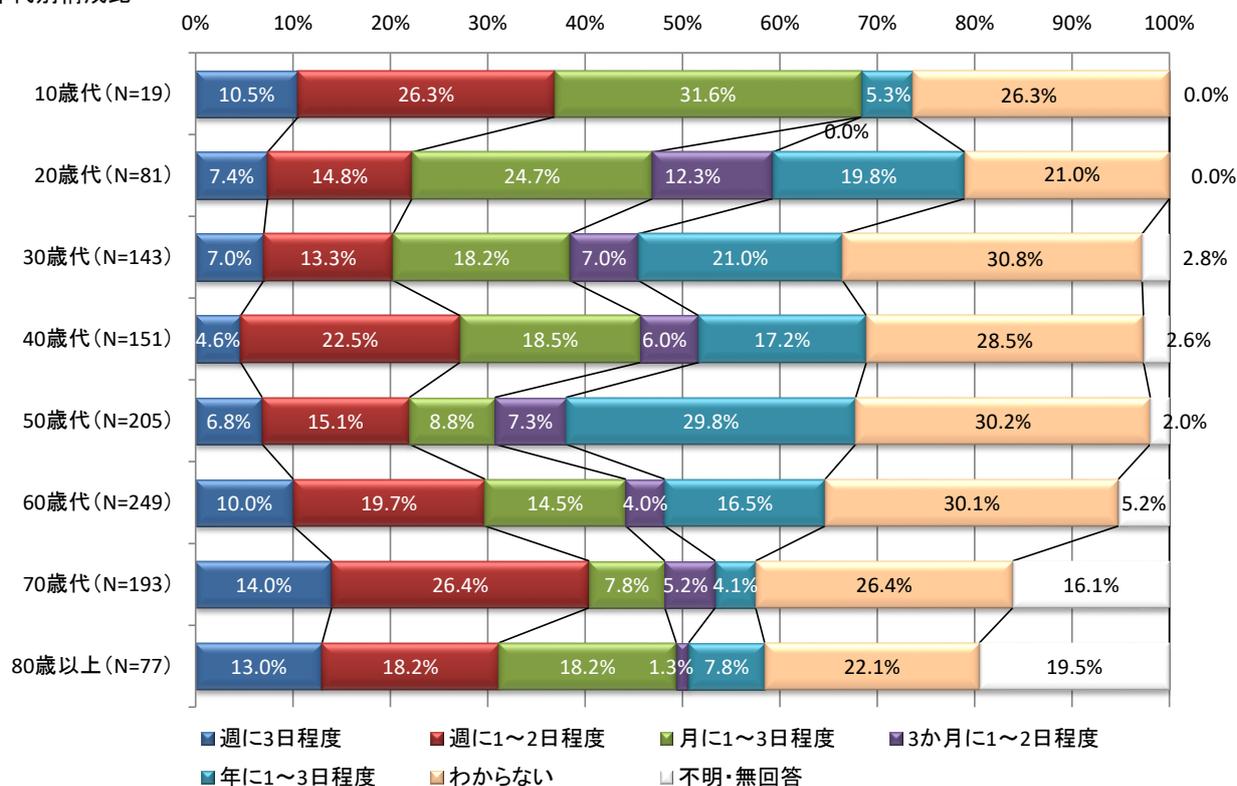
運動習慣については「わからない」28.0%を除き、「週に1~2日程度」が19.4%と最も多く、次いで「年に1~3日程度」が17.0%となっています。

また、年代別構成比で見ると、50歳代で月に1日以上運動をする人の割合が最も少なく、4割弱となっています。

(N=1,126)



年代別構成比

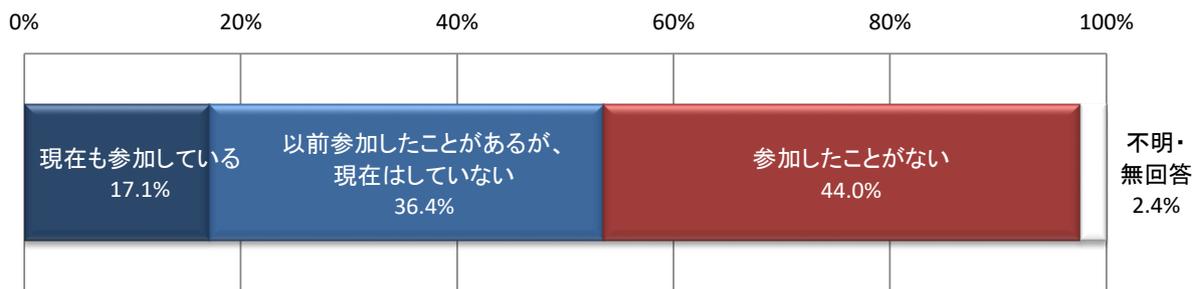


問 15 これまでに、体育協会に加盟している団体（各地区体育振興会、スポーツ少年団、競技団体等）によるスポーツ活動（スポーツフェスティバル、競技大会等）、自治会におけるスポーツ活動（運動会等）に参加したことがありますか。〈〇は1つ〉

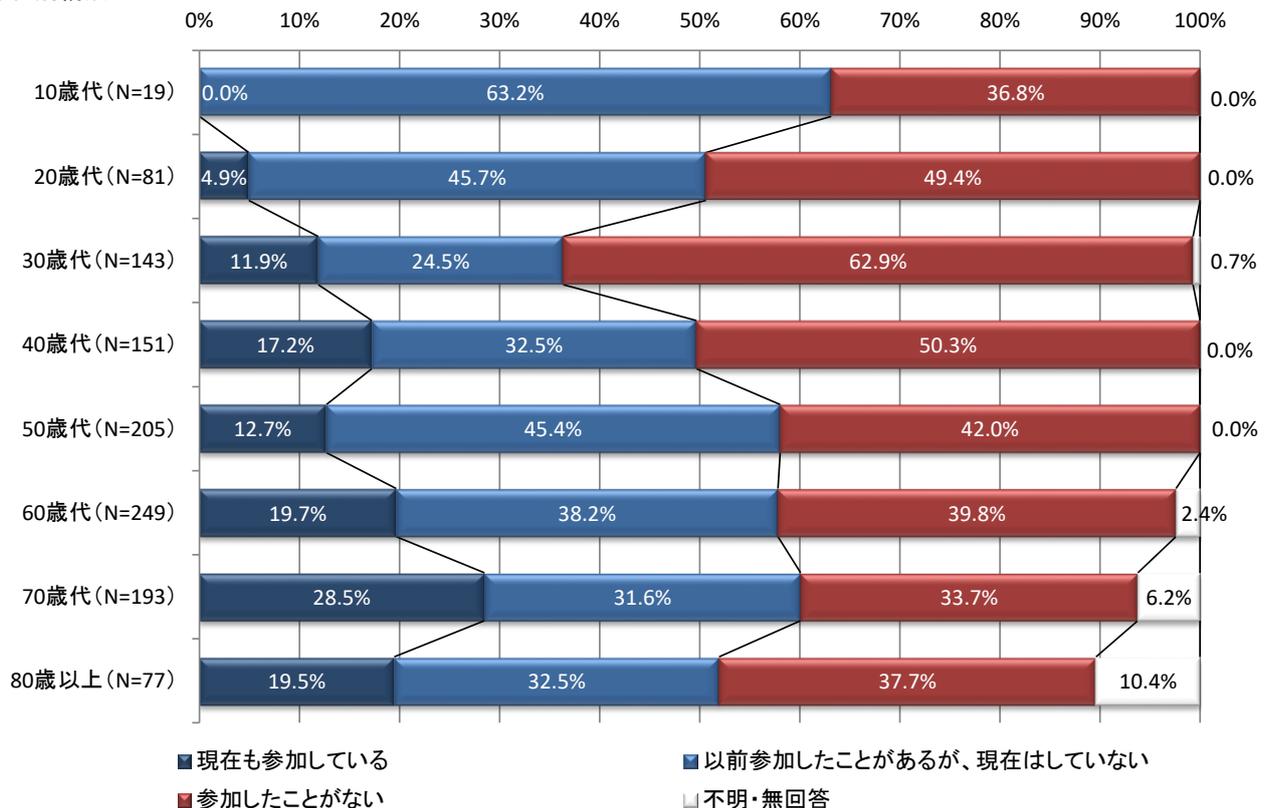
スポーツ活動への参加について見てみると、「参加したことがない」が44.0%で最も多く、次いで「以前参加したことがあるが、現在はしていない」が36.4%となっています。

年代別構成比で見ると、30歳代で「参加したことがない」が6割強と多く、20歳代、40歳代でも半数程度が「参加したことがない」と回答しています。

(N=1,126)

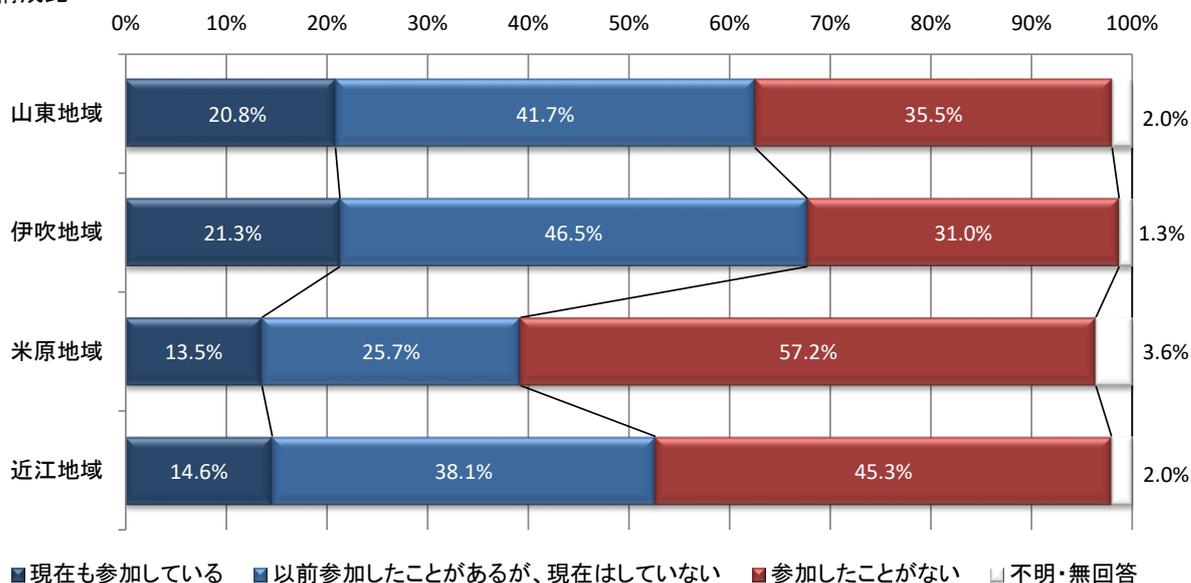


年代別構成比



また、地域別構成比で見ると、「参加している」、または「参加したことがある」は伊吹地域で比較的高く、米原地域で低くなっています。

地域別構成比



問 16 男性は仕事、女性は家庭といった考え方がありますが、あなたはどうお考えですか。〈〇は1つ〉

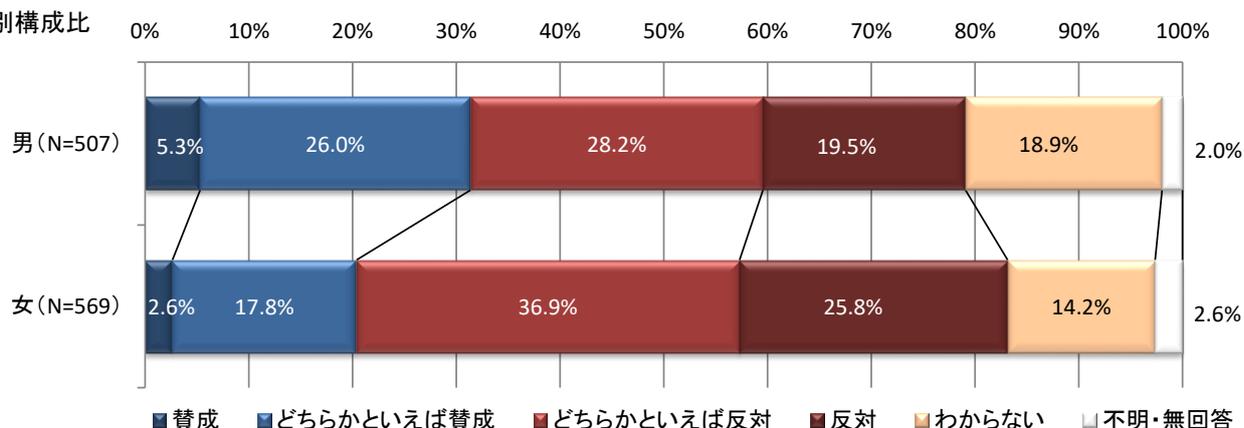
男性は仕事、女性は家庭といった考え方については、「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』は 25.8%となっており、「反対」、「どちらかといえば反対」を合わせた『反対』55.3%の半数以下となっています。

(N=1,126)

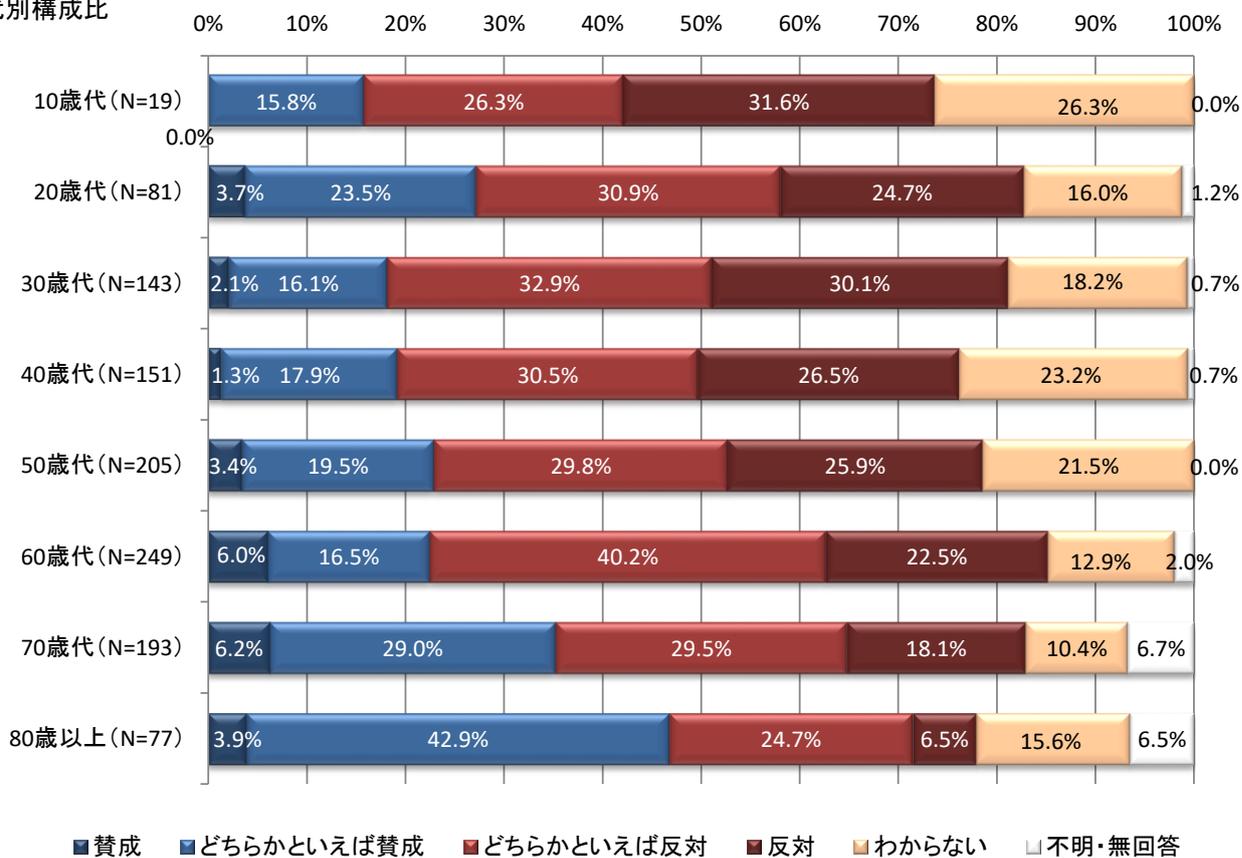


性別構成比では、男性の方が『賛成』がやや多く、年代別構成比では、年代が上がるほど『賛成』の割合が多くなる傾向にあります。

性別構成比



年代別構成比



問 17 近年、在日外国人の数は増加傾向にあります。地域で外国人と交流することは、好ましいことだと思いますか。〈〇は1つ〉

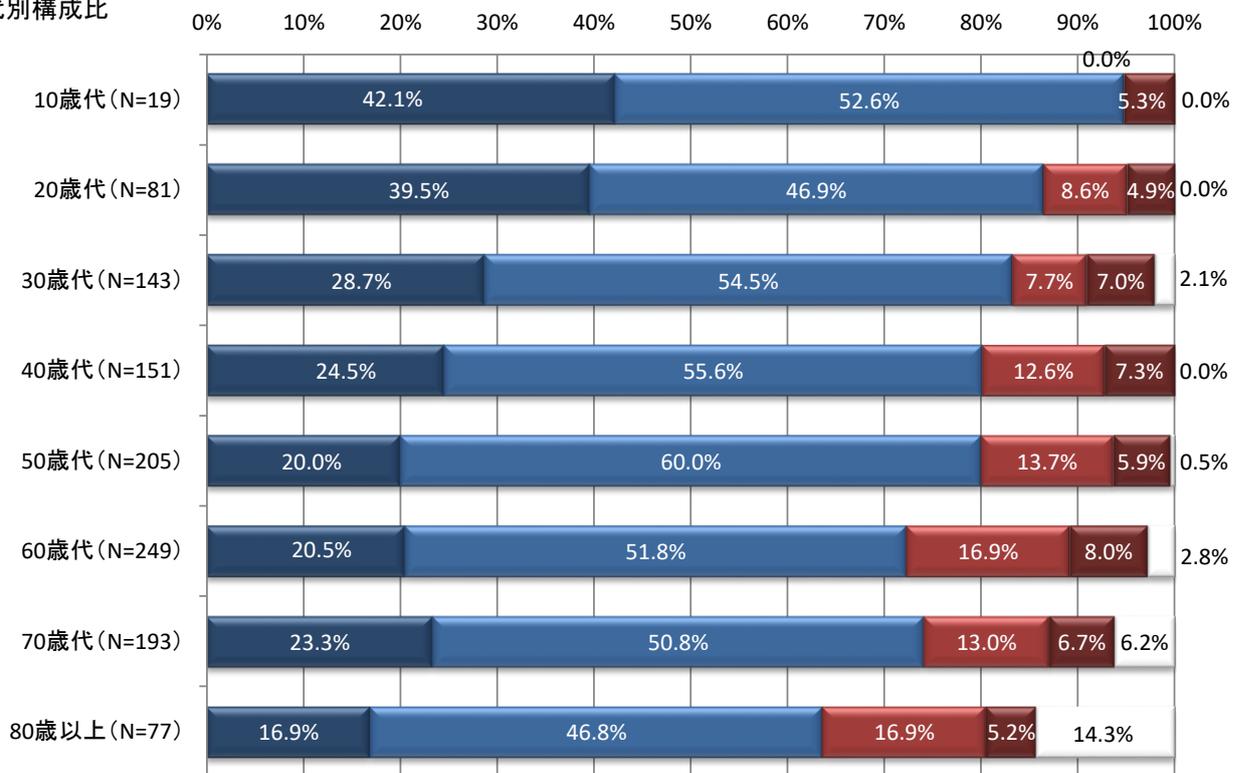
地域で外国人と交流することが好ましいと思うかについては、「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『好ましいと思う』割合は77.3%となっており、「そう思わない」、「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた19.8%を大きく上回っています。

また、年齢別構成比では、年齢が下がるほど、『好ましいと思う』割合が上がる傾向が見られます。

(N=1,126)



年代別構成比

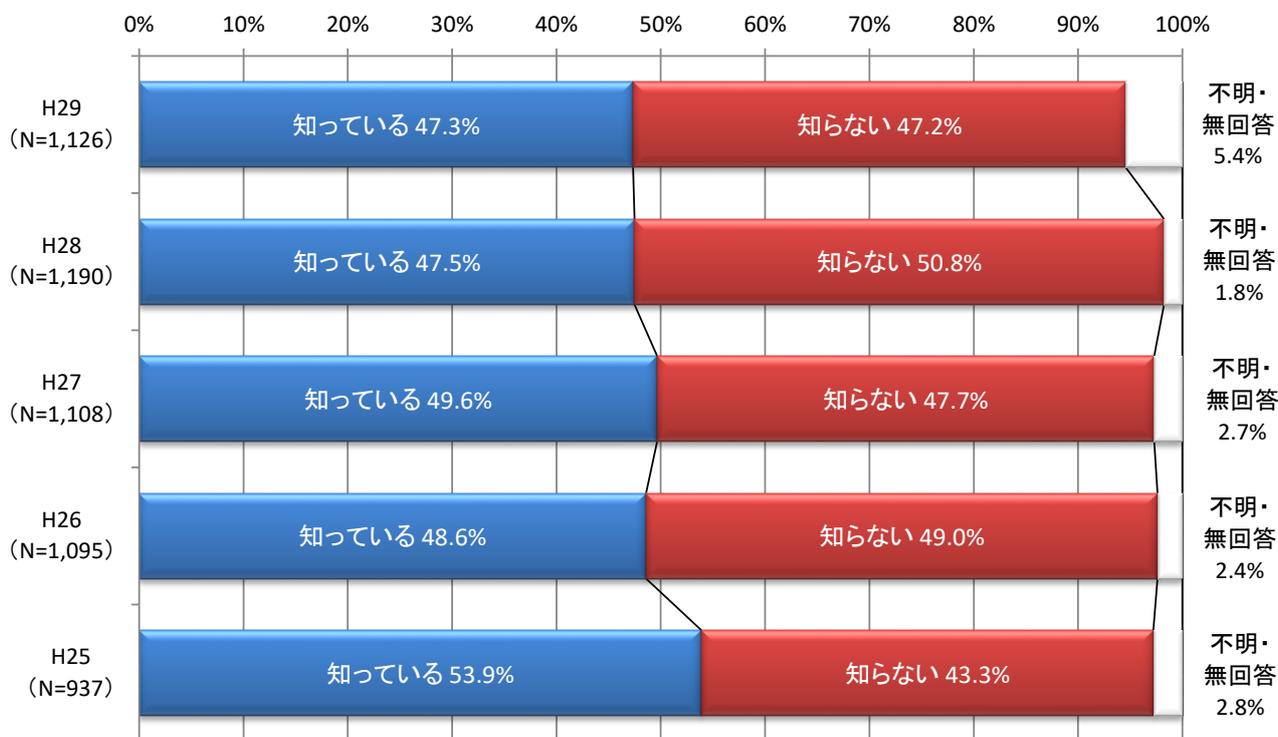


■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない □ 不明・無回答

問 18 あなたは、市が「非核・平和都市宣言のまち」であることをご存じですか。
 <〇は1つ>

市が「非核・平和都市宣言のまち」であることの認知度については、「知っている」が47.3%、「知らない」が47.2%となっています。

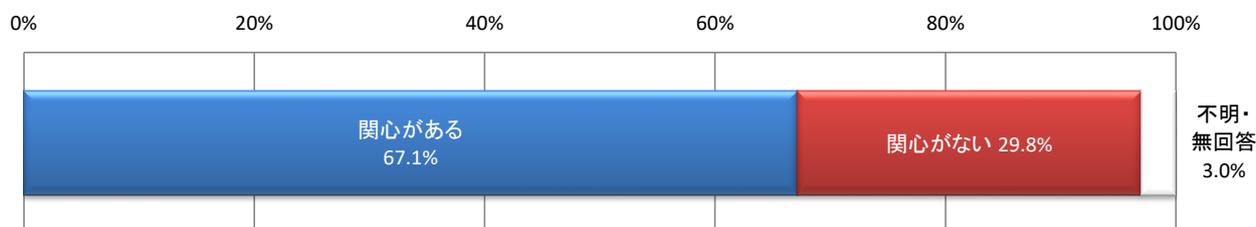
経年変化で見ると、認知度は概ね5割程度で推移しています。



問 19 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会について、関心はありますか。
 <〇は1つ>

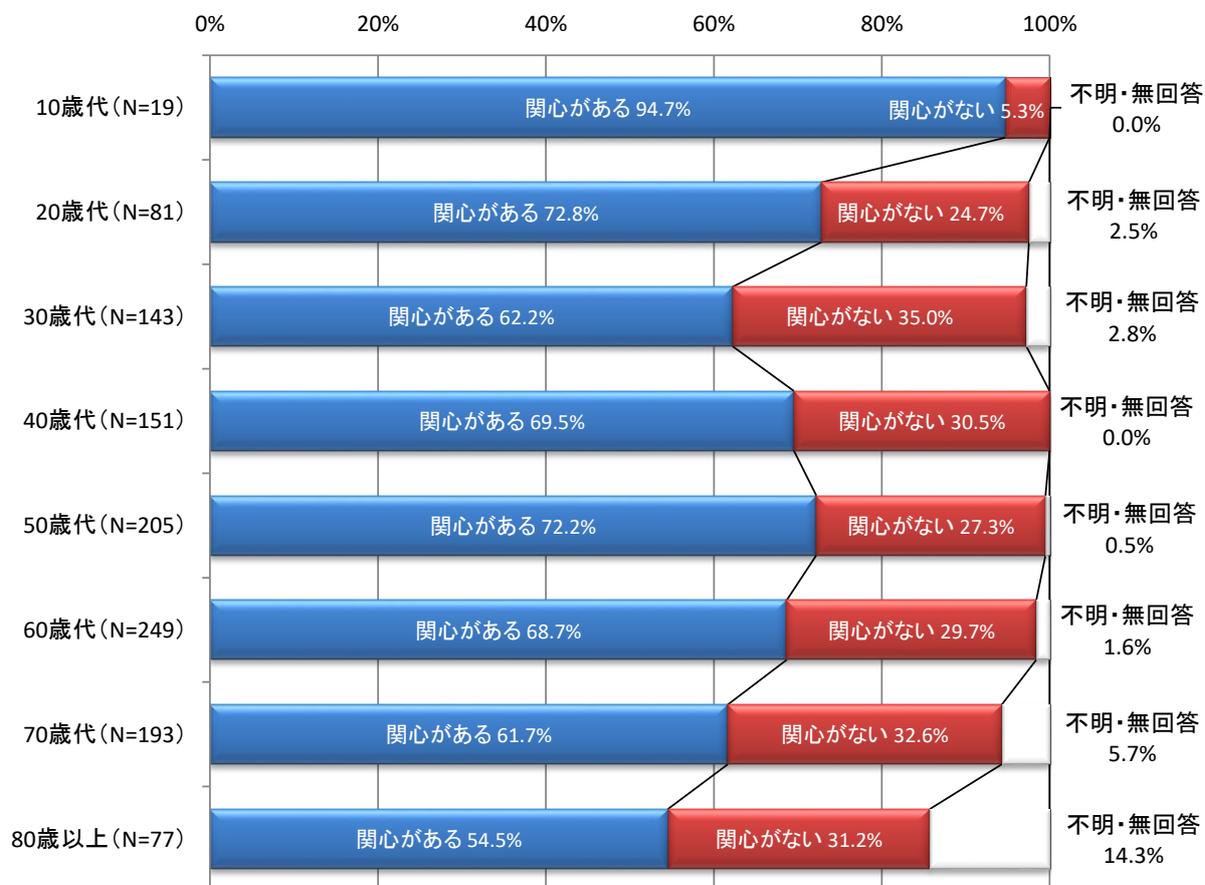
2020年東京オリンピック・パラリンピックへの関心については、「関心がある」が67.1%、「関心がない」が29.8%となっています。

(N=1,126)



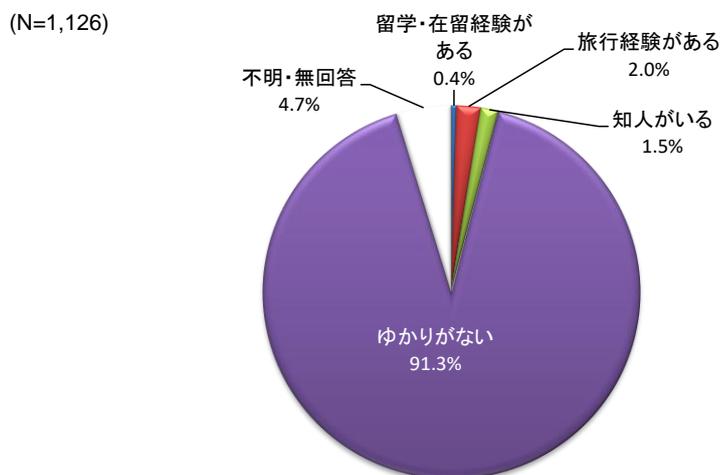
また、年代別構成比で見てみると、10歳代で特に関心が高く、94.7%となっています。

年代別構成比



問20 あなたとニュージーランドとの関係を教えてください。〈〇は1つ〉

回答者とニュージーランドとの関係について見てみると、「ゆかりがない」が9割以上を占めています。「旅行経験がある」は2.0%、「知人がいる」は1.5%、「留学・在留経験がある」は0.4%となっています。



問 21 米原市がニュージーランドとの交流を行うことについて、関心はありますか。
 <〇は1つ>

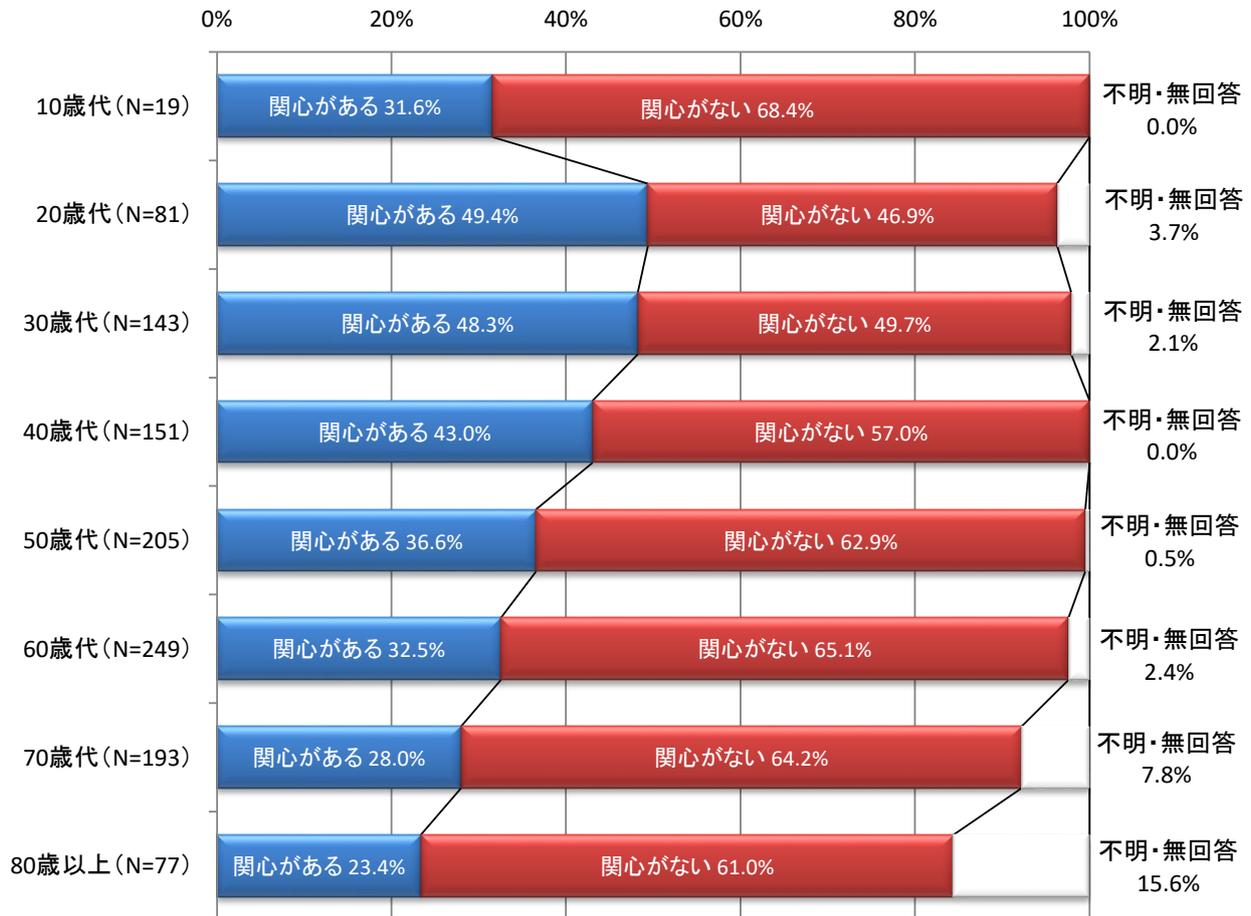
米原市とニュージーランドとの交流に対する関心については、「関心がある」が36.4%、「関心がない」が59.9%となっています。

また、年代別構成比で見ると、年齢が若いほどに関心が高くなる傾向が見られますが、10歳代では31.6%と全体平均よりやや低くなっています。

(N=1,126)



年代別構成比

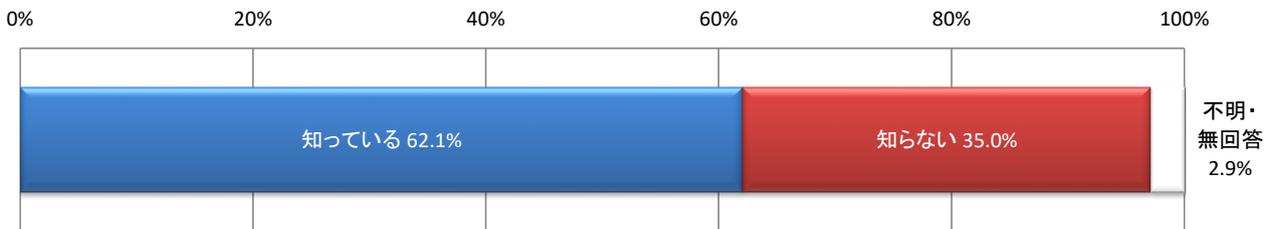


問 22 米原市内で（フィールド）ホッケーが盛んに行われていることを知っていましたか。〈〇は1つ〉

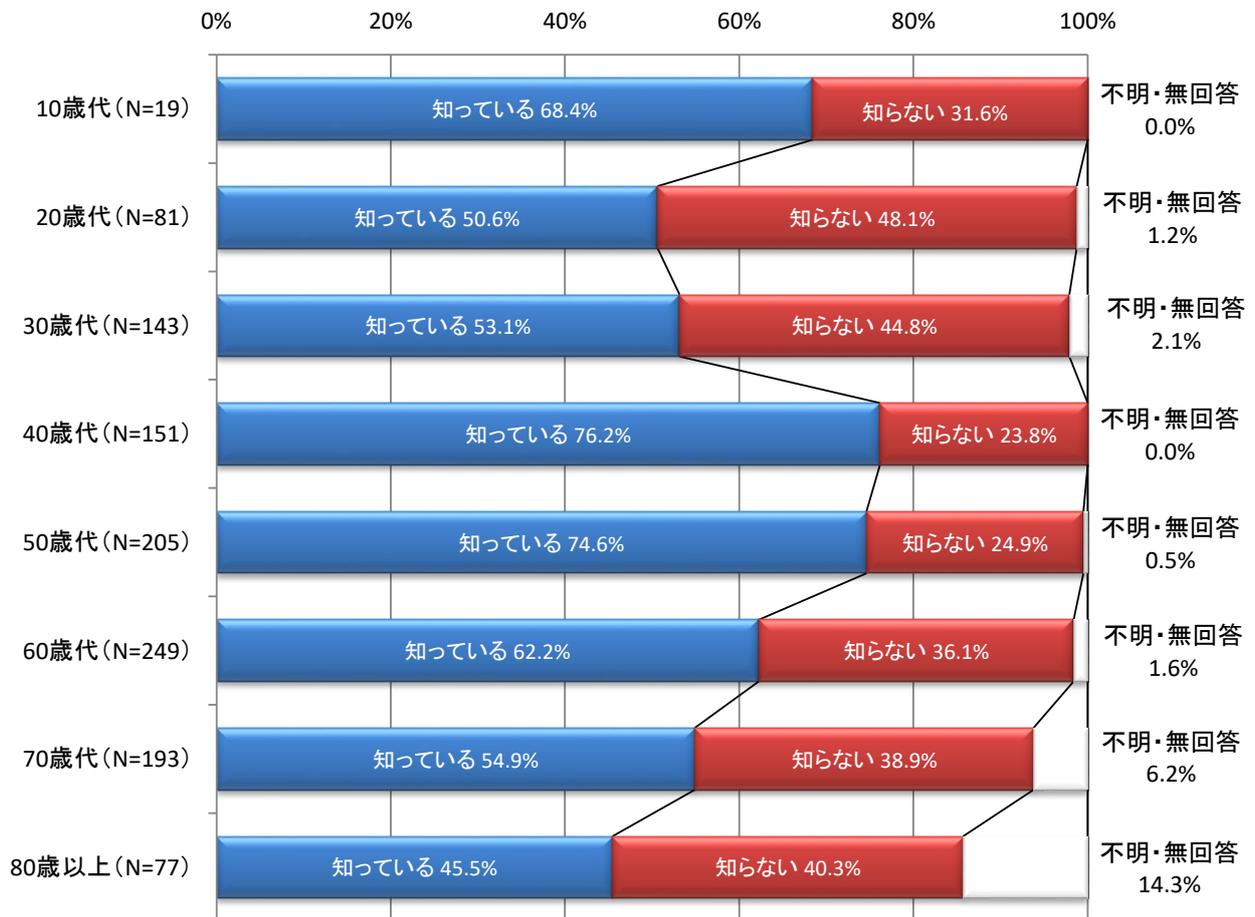
米原市内で（フィールド）ホッケーが盛んなことに対する認知度については、「知っている」が62.1%、「知らない」が35.0%となっています。

また、年代別構成比で見ると、40～50歳代で特に認知度が高く、7割以上の方が「知っている」と回答しています。

(N=1,126)



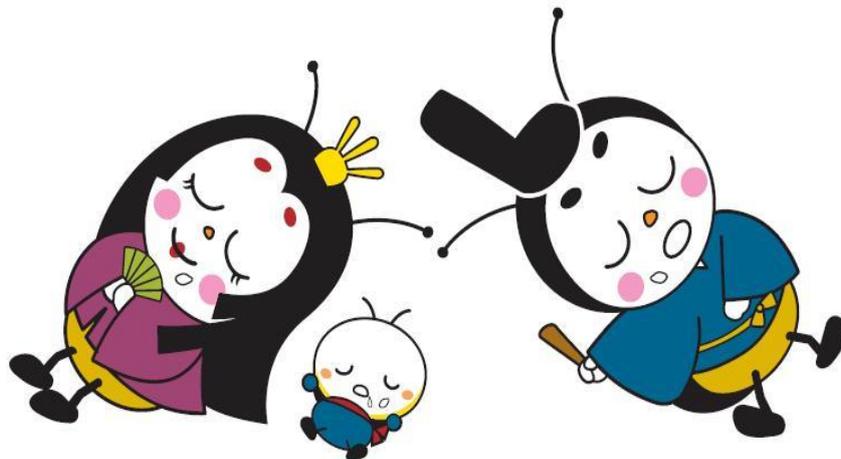
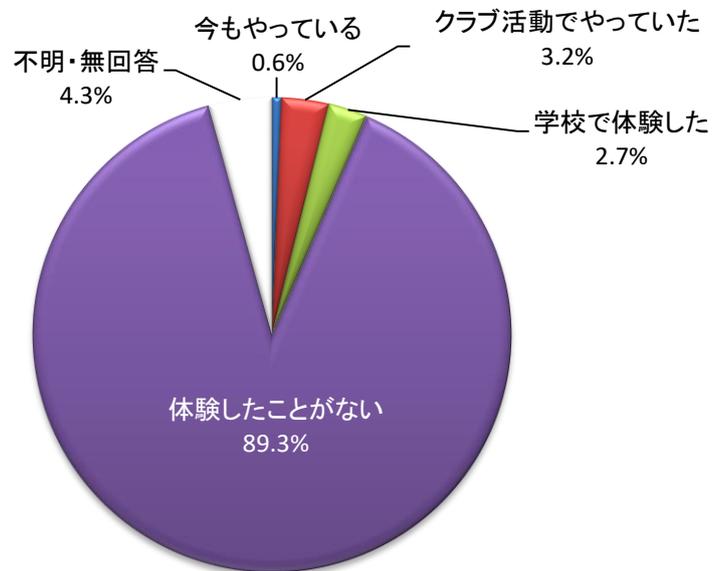
年代別構成比



問 23 (フィールド) ホッケーの経験について教えてください。〈〇は1つ〉

(フィールド) ホッケーの経験について見てみると、「体験したことがない」が約9割、「クラブ活動でやっていた」が3.2%、「学校で体験した」が2.7%、「今もやっている」が0.6%となっています。

(N=1,126)

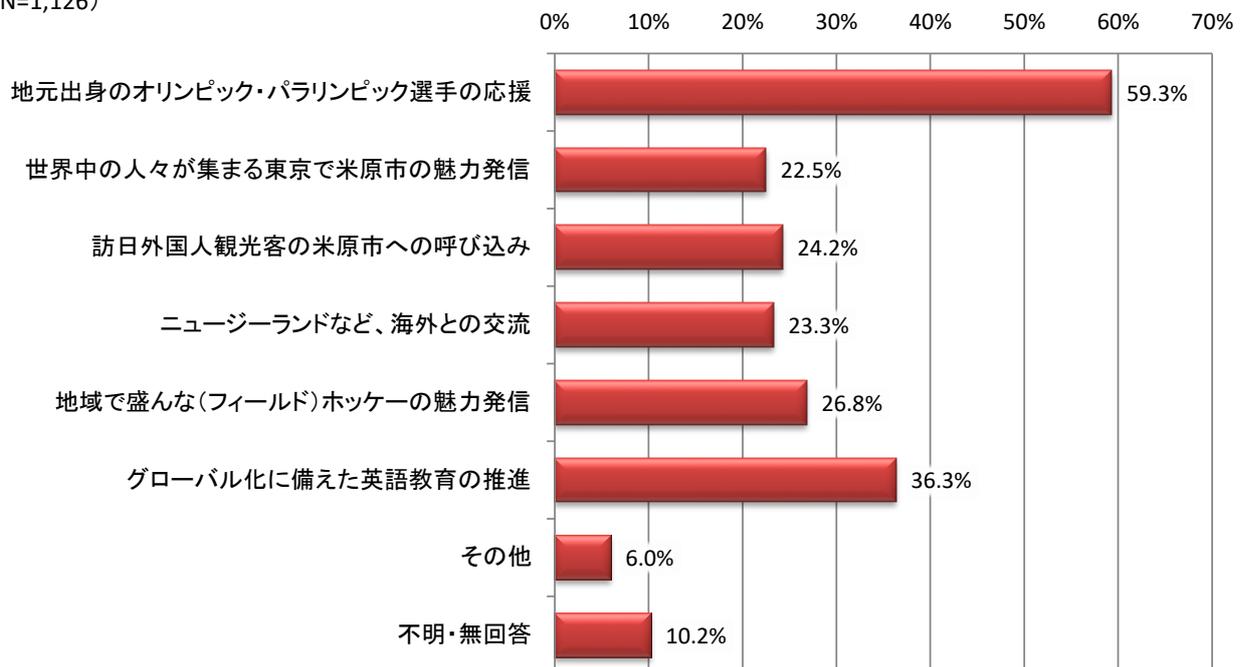


問 24 1964 年東京オリンピック大会では、開催前に東海道新幹線や名神高速道路が開通されるなど、様々な分野で社会的な影響を及ぼしました。これらの開催効果は現在の米原市にも大きな恩恵を与えてくれています。

このような中、2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会の開催効果を次世代にも継承できるよう、米原市でも取り組んでいきたいと考えていますが、どのような取組を進めたらよいか、あなたのご意見を教えてください。〈あてはまるものすべてに○〉

2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会の開催効果を次世代に継承するために必要な取組については、「地元出身のオリンピック・パラリンピック選手の応援」が 59.3%で最も多く、次いで「グローバル化に備えた英語教育の推進」が 36.3%となっています。

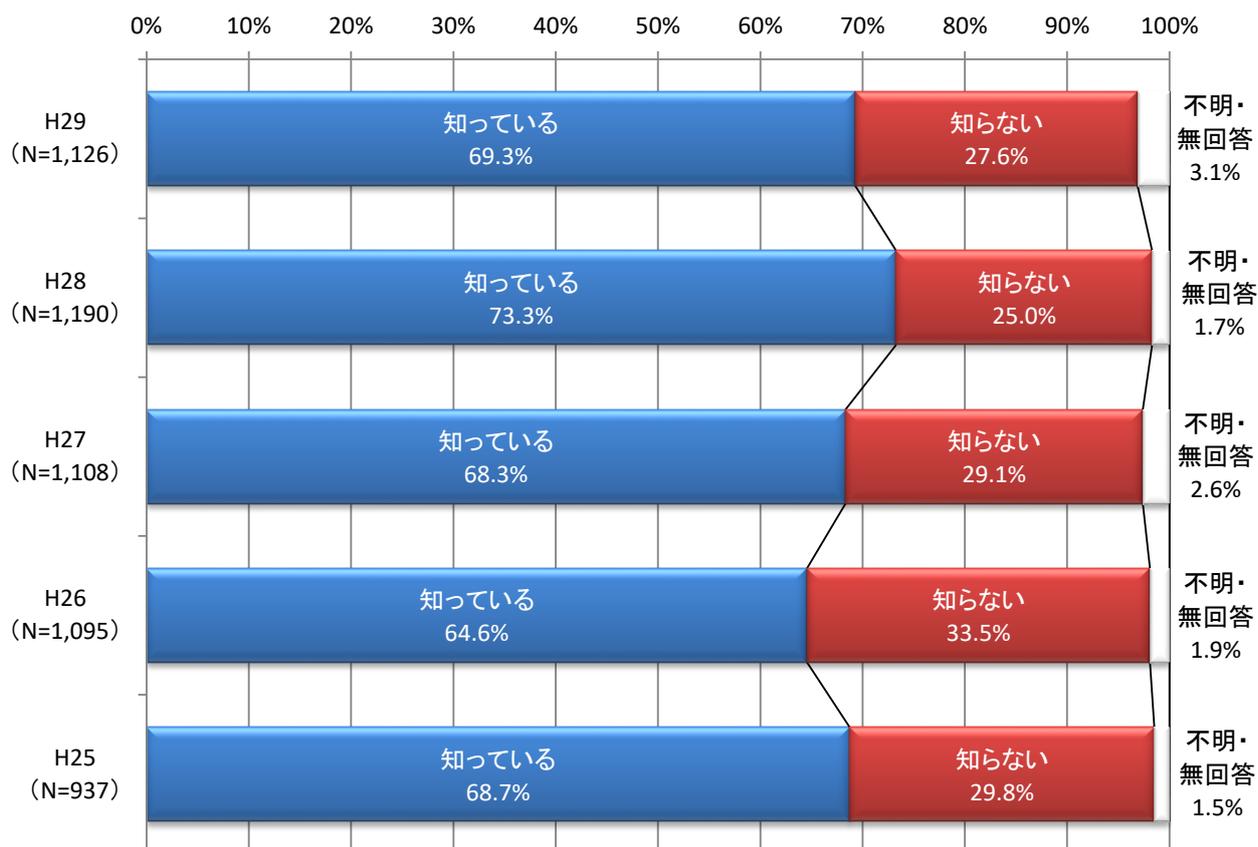
(N=1,126)



「3 水清く緑あふれる自然と共生する安全なまちづくり」に関する設問です。

問 25 あなたは、「米原市蛍保護条例」で市内全域がホタルの保護区域に定められていることをご存知ですか。〈〇は1つ〉

「米原市蛍保護条例」で市内全域がホタルの保護区域に定められていることの認知度について見てみると、昨年度まで上昇傾向にありましたが、今年度はやや下がり、69.3%となっています。

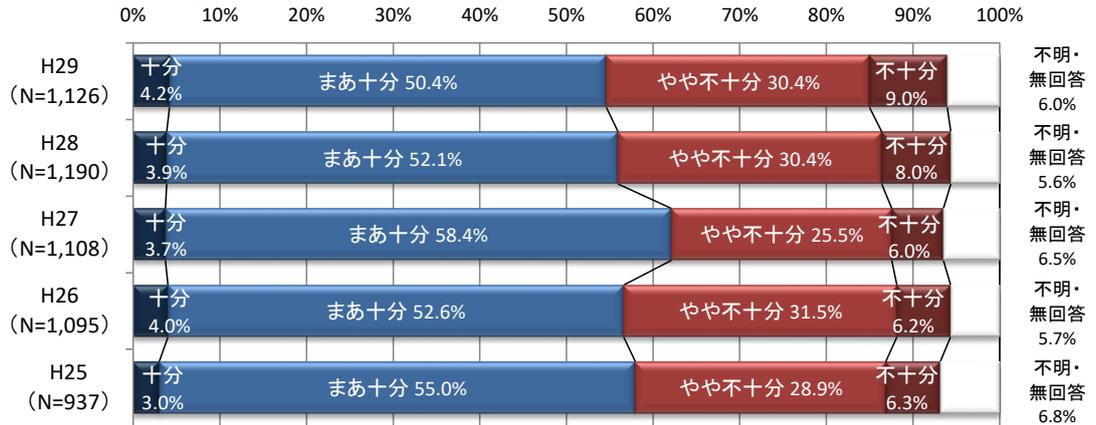


問 26 あなたは、災害に対する備えとして、次の項目は十分だと思いますか。
 〈〇はそれぞれ1つずつ〉

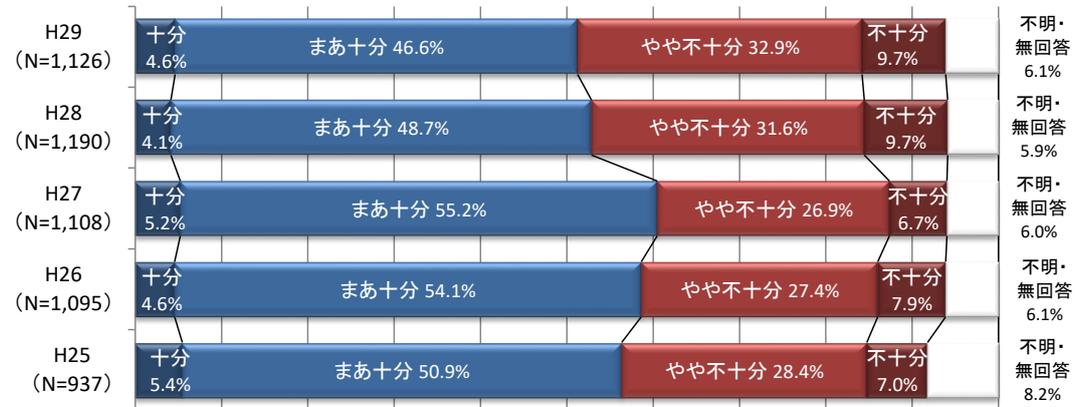
災害に対する備えについて見てみると、①災害時の市からの情報伝達体制、②災害時の広域避難所、③防災訓練の実施状況の各項目において『十分』（「十分」および「まあ十分」）の割合が『不十分』（「やや不十分」および「不十分」）を上回り、5割前後となっています。

経年変化で見ると、平成27年度をピークにすべての項目で「まあ十分」のポイントが減少し、『不十分』のポイントが上昇する傾向が見られます。

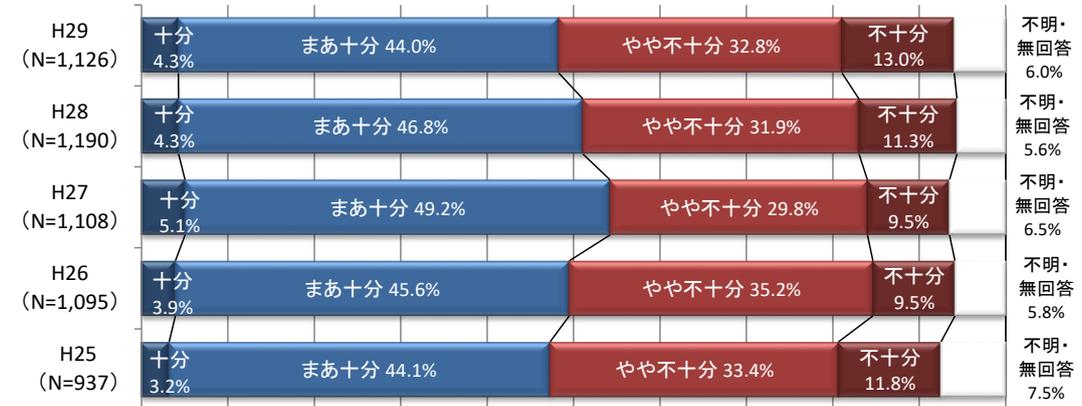
① 災害時の市からの情報伝達体制



② 災害時の広域避難所



③ 防災訓練の実施状況

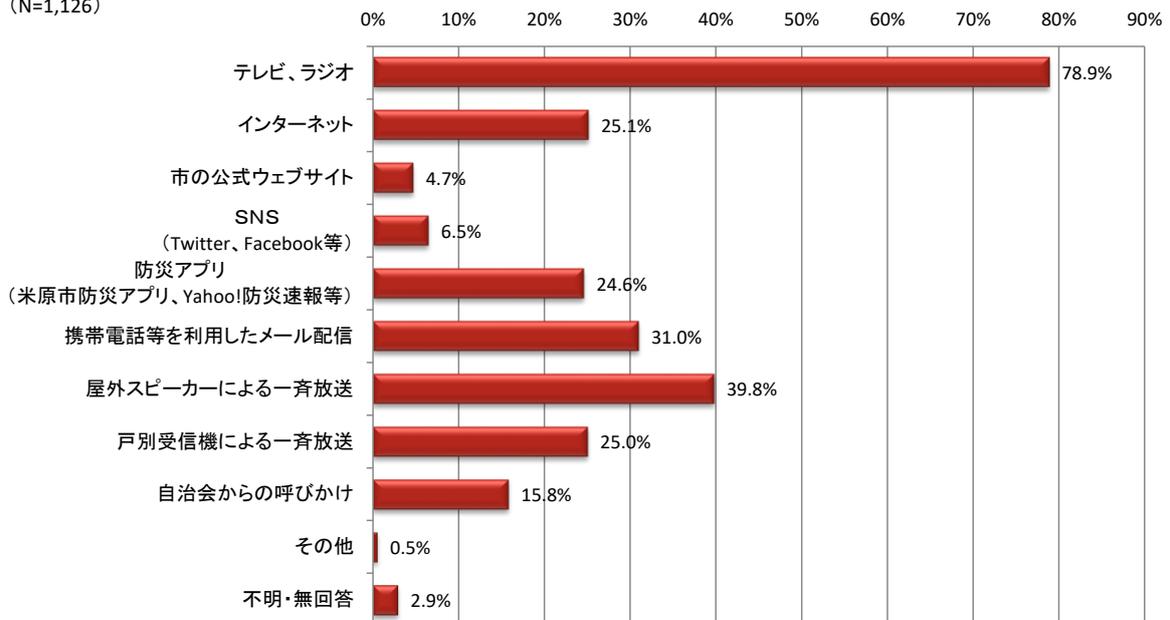


問 27 あなたは、災害発生時または災害が発生しそうなとき、どのような手段で情報（避難情報を含む）を得ていますか。〈〇は主なもの3つ〉

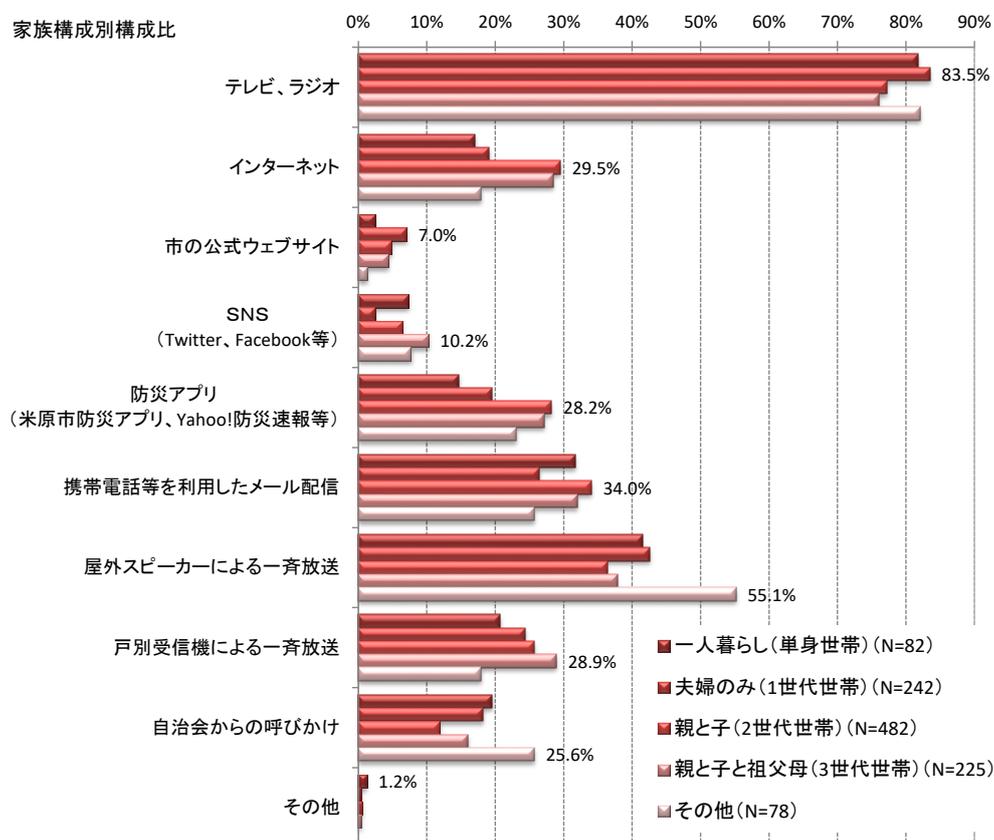
災害発生時の情報入手手段は、「テレビ、ラジオ」が78.9%と最も高く、次いで「屋外スピーカーによる一斉放送」が39.8%、「携帯電話等を利用したメール配信」が31.0%となっています。

家族構成別に見ると、「インターネット」「防災アプリ」「携帯電話等を利用したメール配信」は「親と子（2世代世帯）」で高く、「戸別受信機による一斉放送」は「親と子と祖父母（3世代世帯）」で高くなっています。

(N=1,126)



家族構成別構成比

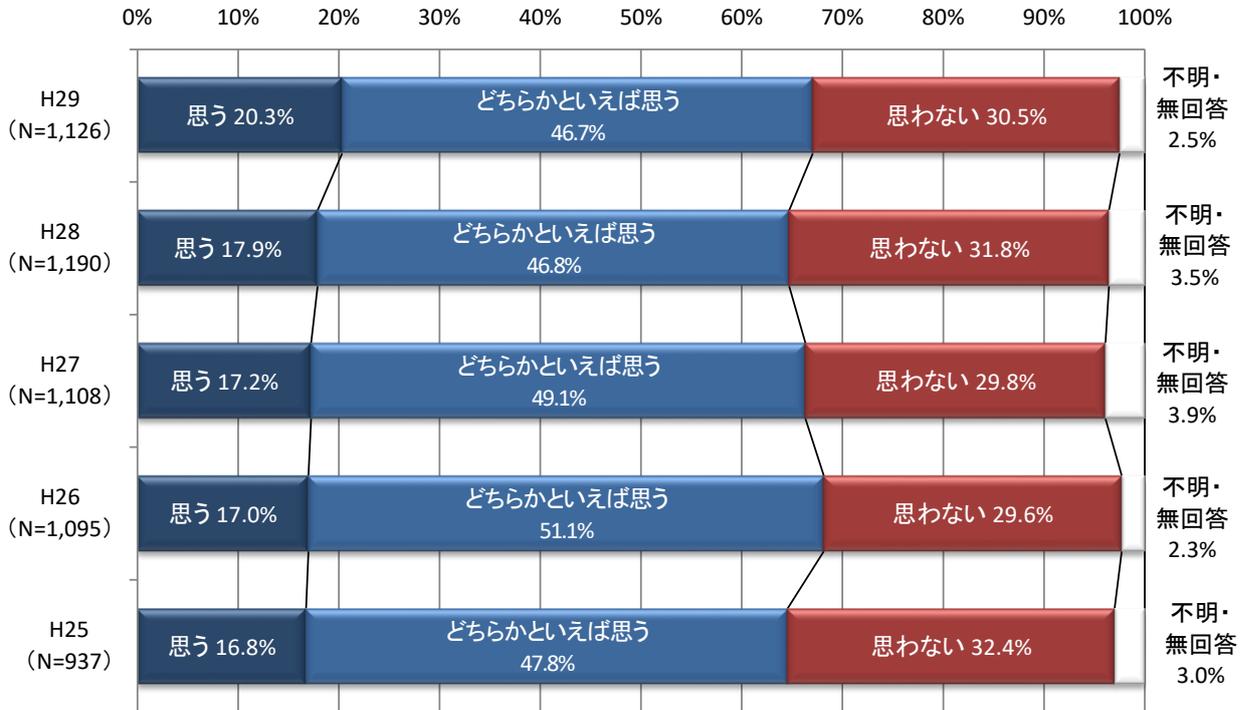


問 28 あなたは、米原市の水道水はおいしいと思いますか。〈〇は 1 つ〉

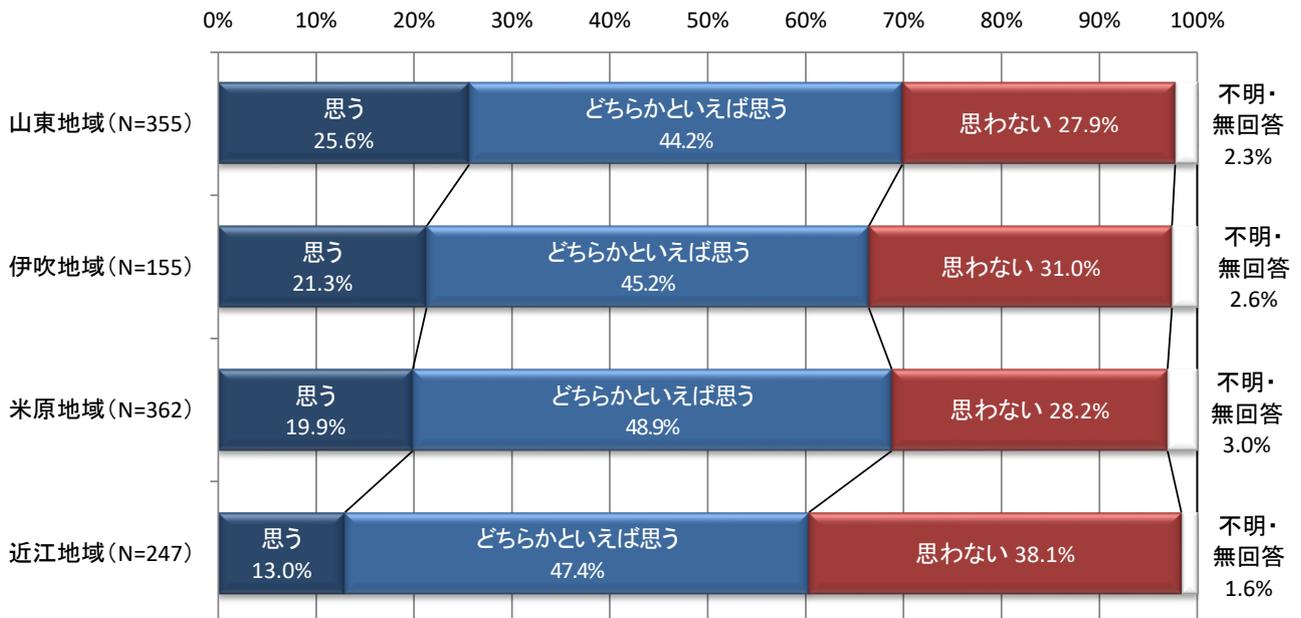
米原市の水道水はおいしいと思うかについて見てみると、「思う」が 20.3%、「どちらかといえば思う」が 46.7%と、67.0%の市民がおいしいと思っています。

経年変化で見ると、水道水をおいしいと「思わない」市民は、3 割前後で推移しています。

また、地域別構成比で見ると、山東地域で「思う」人が最も多く「どちらかといえば思う」と合わせて 69.8%の人がおいしいと感じています。一方、近江地域では「思う」が 13.0%にとどまっています。



地域別構成比

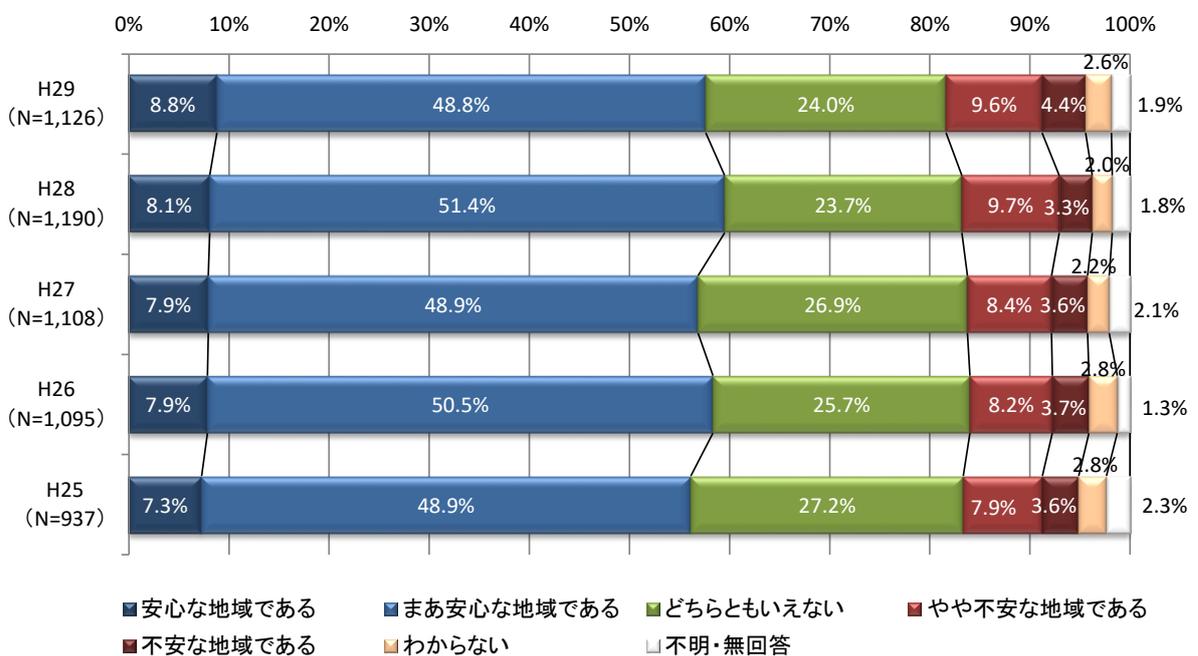


問 29 あなたが暮らしている地域は、犯罪や非行に対して安心な地域だと思いますか。
 〈〇は1つ〉

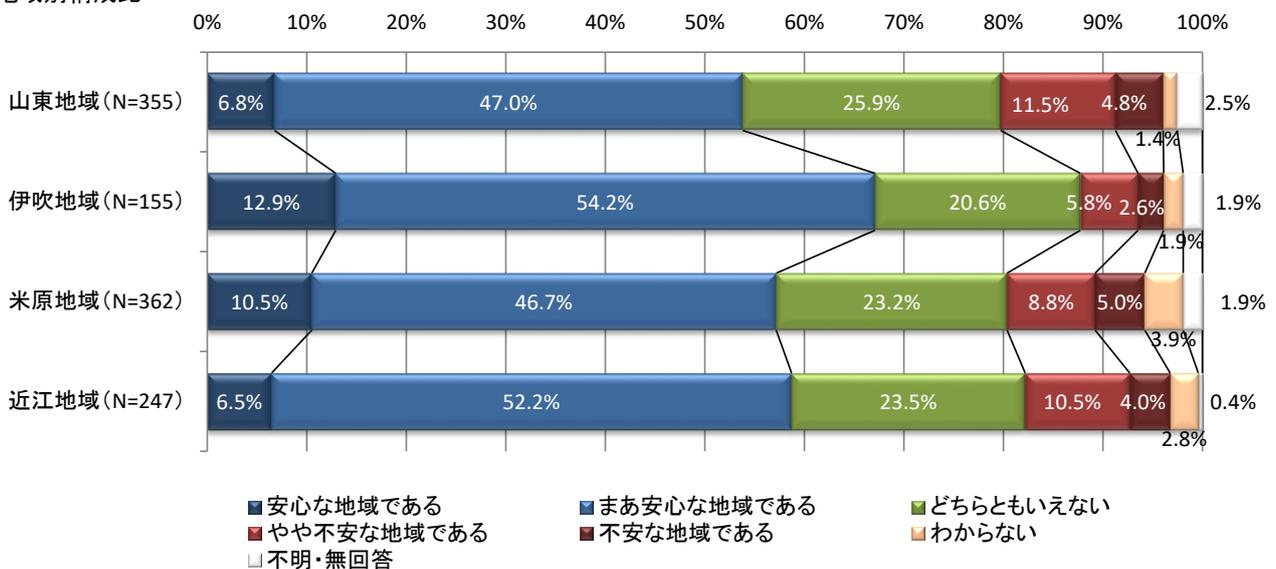
暮らしている地域は、犯罪や非行に対して安心な地域だと思うかについては、「安心な地域である」と「まあ安心な地域である」の合計は57.6%と、「やや不安な地域である」と「不安な地域である」の合計の14.0%を上回っており、安心な地域として認識している人の割合が高くなっています。

経年変化で見ると、平成28年度が最も『安心』（「安心な地域である」と「まあ安心な地域である」の合計）が高くなっていますが、5～6割台の市民が『安心』、1割強の市民が『不安』（「不安な地域である」と「やや不安な地域である」の合計）、2～3割の市民が「どちらともいえない」という状態で推移しています。

地域別構成比で見ると、山東地域では『安心』の割合が比較的 low、伊吹地域では高いことがわかります。



地域別構成比



問 30 あなたは、過去に商品の購入やサービス等の契約をしてトラブルになったことがありますか。〈〇は 1 つ〉

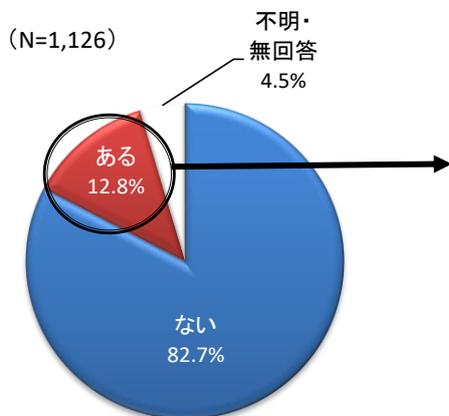
付問 1 【問 30 で「ある」と答えられた方】 そのときあなたはどうされましたか。〈〇は 1 つ〉

消費生活に係るトラブルについて見てみると、1 割強の市民が何らかのトラブルを経験しており、そのうち 5 割強の人が「自分または家族などが業者に連絡をして、解決できた」となっています。一方で、「自分または家族などが業者に連絡をしたが、解決できなかった」と「あきらめて何もしなかった」を合わせると、34.1%の人が解決できていない事実が分かりました。

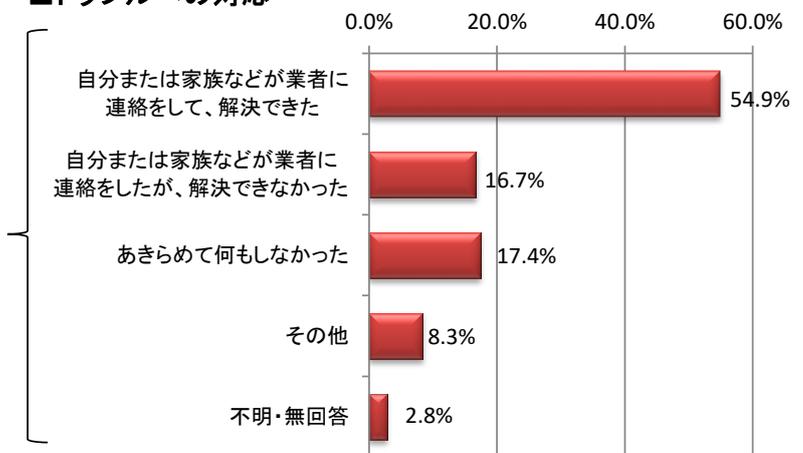
「その他」には、消費者センターに相談して解決したという意見がありました。

またトラブルの有無について年代別に見てみると、トラブルになったことが「ある」と回答した人の割合は 30 歳代で比較的高くなっています。

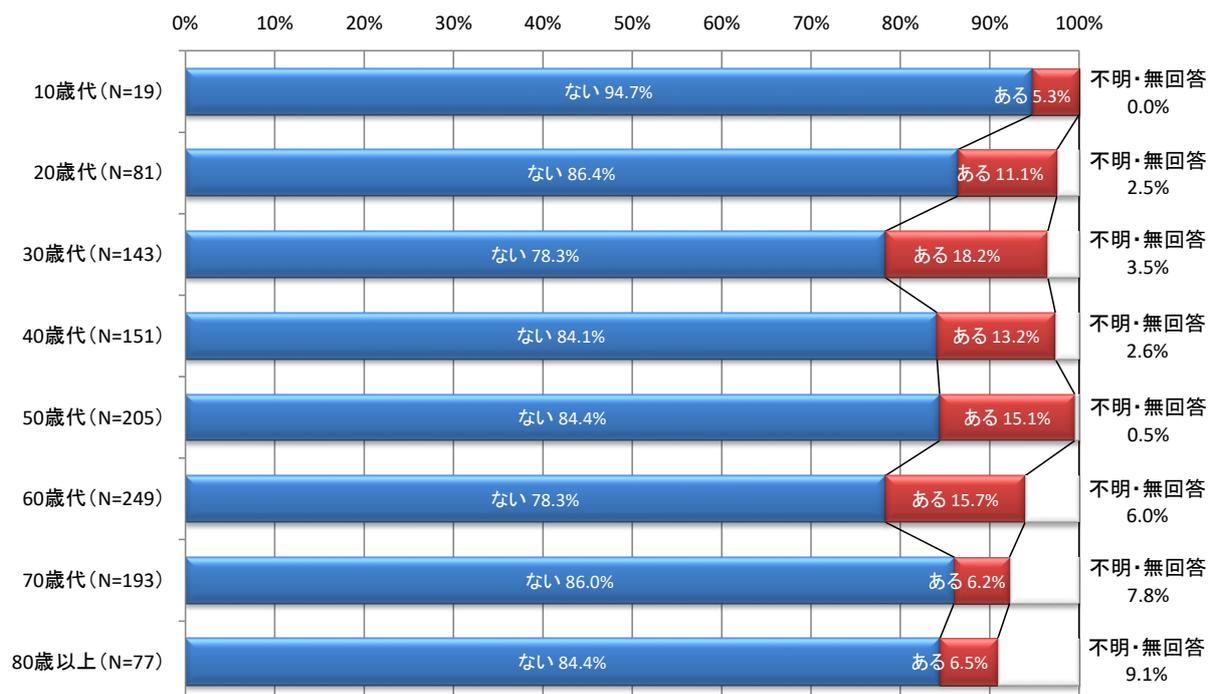
■トラブルの有無



■トラブルへの対応 (N=144)



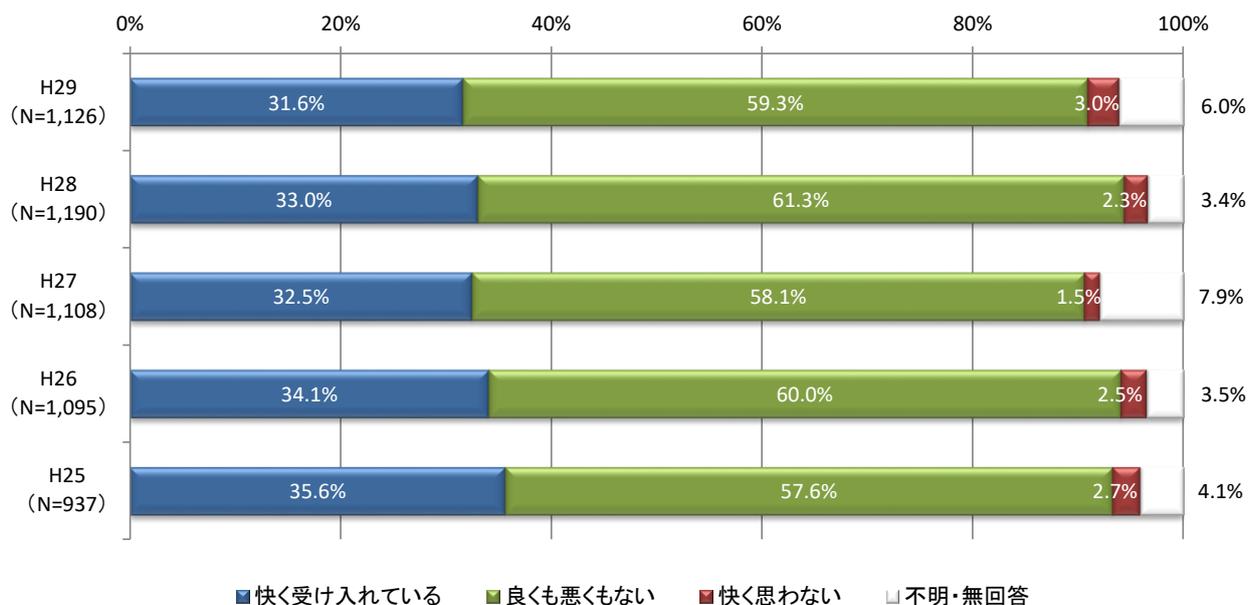
トラブルの有無 年代別構成比



「4 地域の魅力と地の利を生かした活力創出のまちづくり」に関する設問です。

問31 あなたは、米原市を訪れる観光客などお客さんを快く受け入れていますか。
 〈〇は1つ〉

米原市を訪れる観光客などのお客さんを快く受け入れているかについて見てみると、「良くも悪くもない」が59.3%と半数以上を占めています。「快く受け入れている」は31.6%と昨年度から1.4ポイント減少しており、引き続き観光客などの受け入れ意識を高める必要があります。



「5 心地よく暮らせるにぎわいと交流を支えるまちづくり」に関する設問です。

問 32 あなたは、移動の際に鉄道を利用されますか。またどの程度利用されますか。
 〈〇は1つ〉

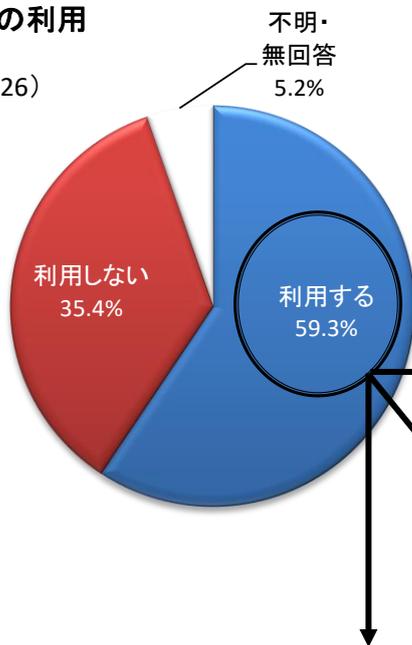
付問 1 【問 32 で「利用する」と答えられた方】あなたが、利用する駅名とその駅までの主な交通手段についてお答えください。〈〇は1つ〉

鉄道による移動については、59.3%の市民が鉄道を利用しており、その利用頻度は「月に1回」や「年に2、3回」が全体の6割以上を占めています。

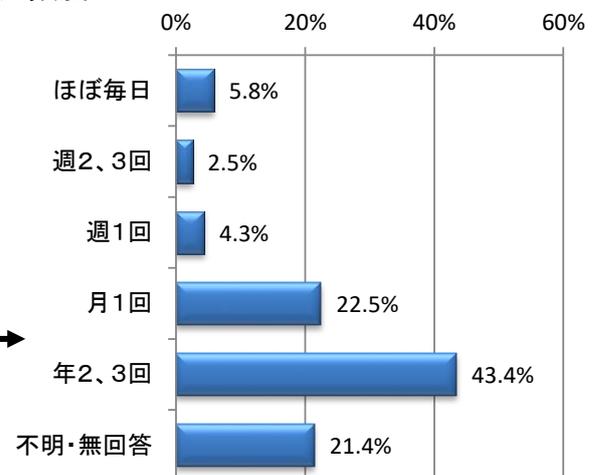
主な利用駅は「米原駅」が51.6%と最も多く、次いで「近江長岡駅」が17.2%となっています。駅までの交通手段については、6割近い人が自家用車で移動していることがわかります。それ以外の交通手段としては、徒歩が23.7%、自転車が11.1%となっています。

■鉄道の利用

(N=1,126)

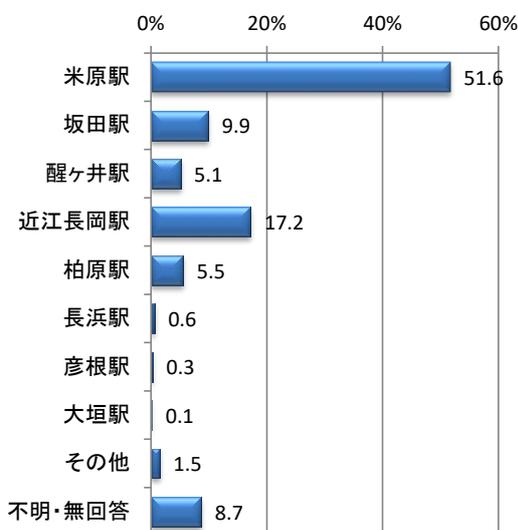


■利用頻度 (N=668)



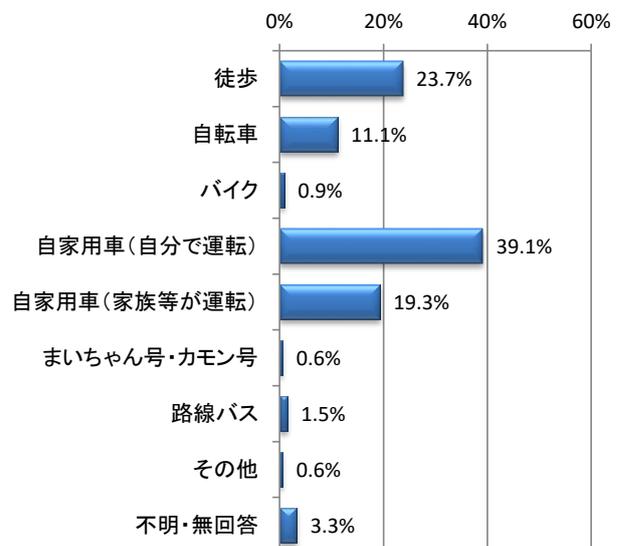
■主な利用駅 (N=668)

(N=668)



■駅までの交通手段 (N=668)

(N=668)



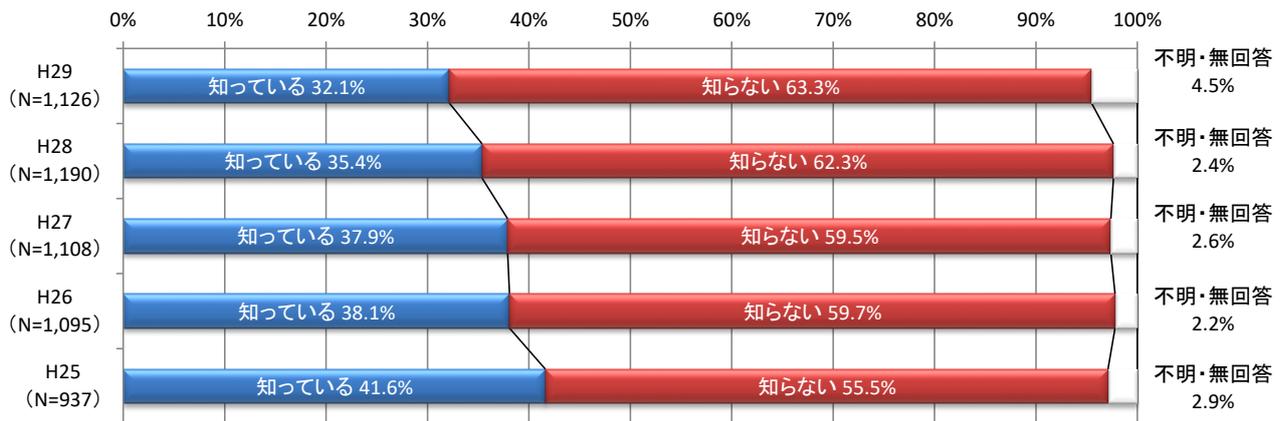
「6 まちづくりを進めるための基盤」に関する設問です。

問 33 あなたは、「水源の里まいばら元気みらい条例」で市全域を「水源の里」としていることをご存知ですか。〈〇は1つ〉

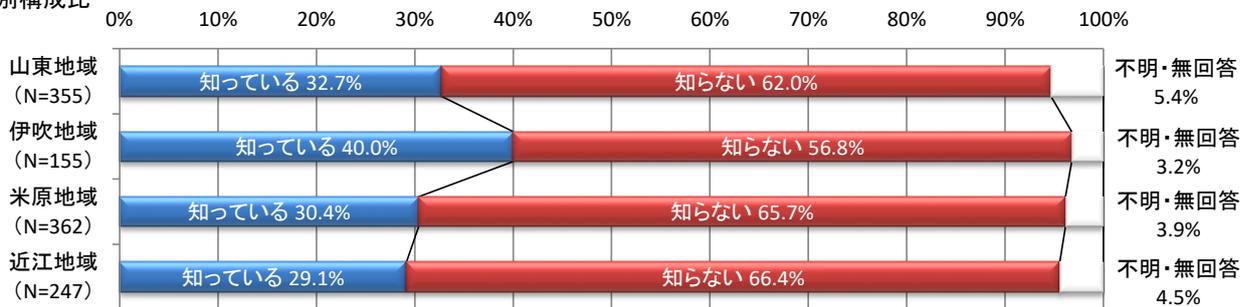
「水源の里まいばら元気みらい条例」で市全域を「水源の里」としていることの認知度について見てみると、「知っている」は32.1%で、昨年度に比べると3.3ポイント減となっています。

経年変化で見ると、「知っている」は平成25年度をピークに減少傾向にあります。

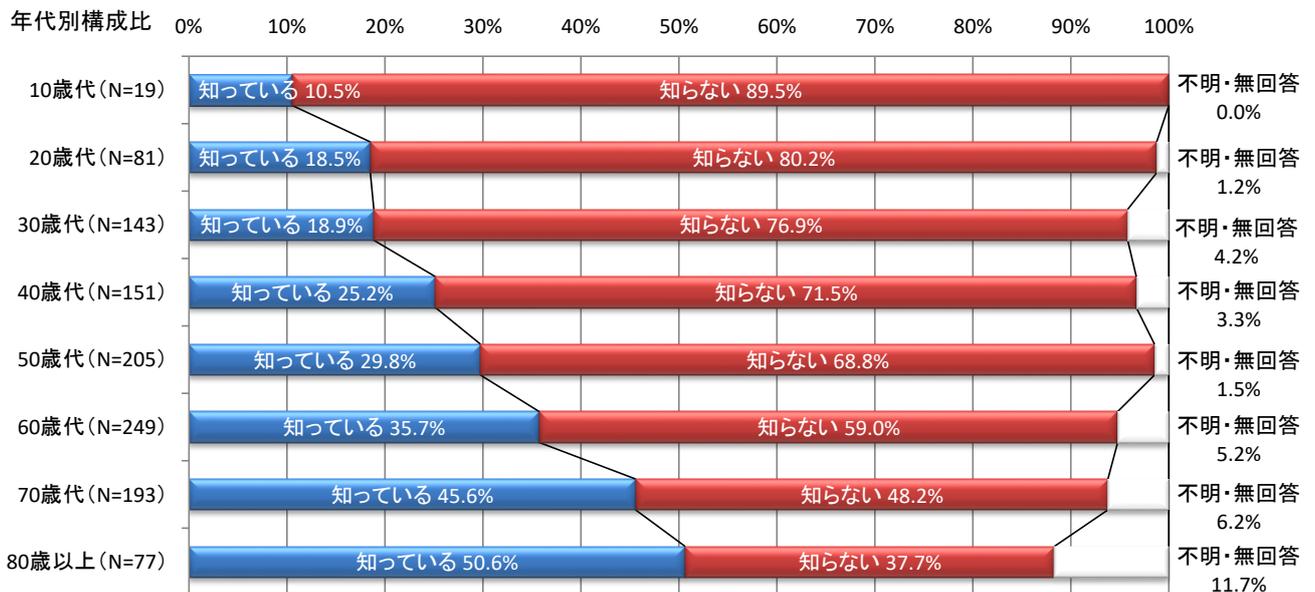
地域別構成比では伊吹地域が40.0%と最も認知度が高くなっています。また、年齢別構成比では80歳以上が5割を超えて最も高く、年齢が下がるにつれて認知度が下がっています。



地域別構成比



年代別構成比

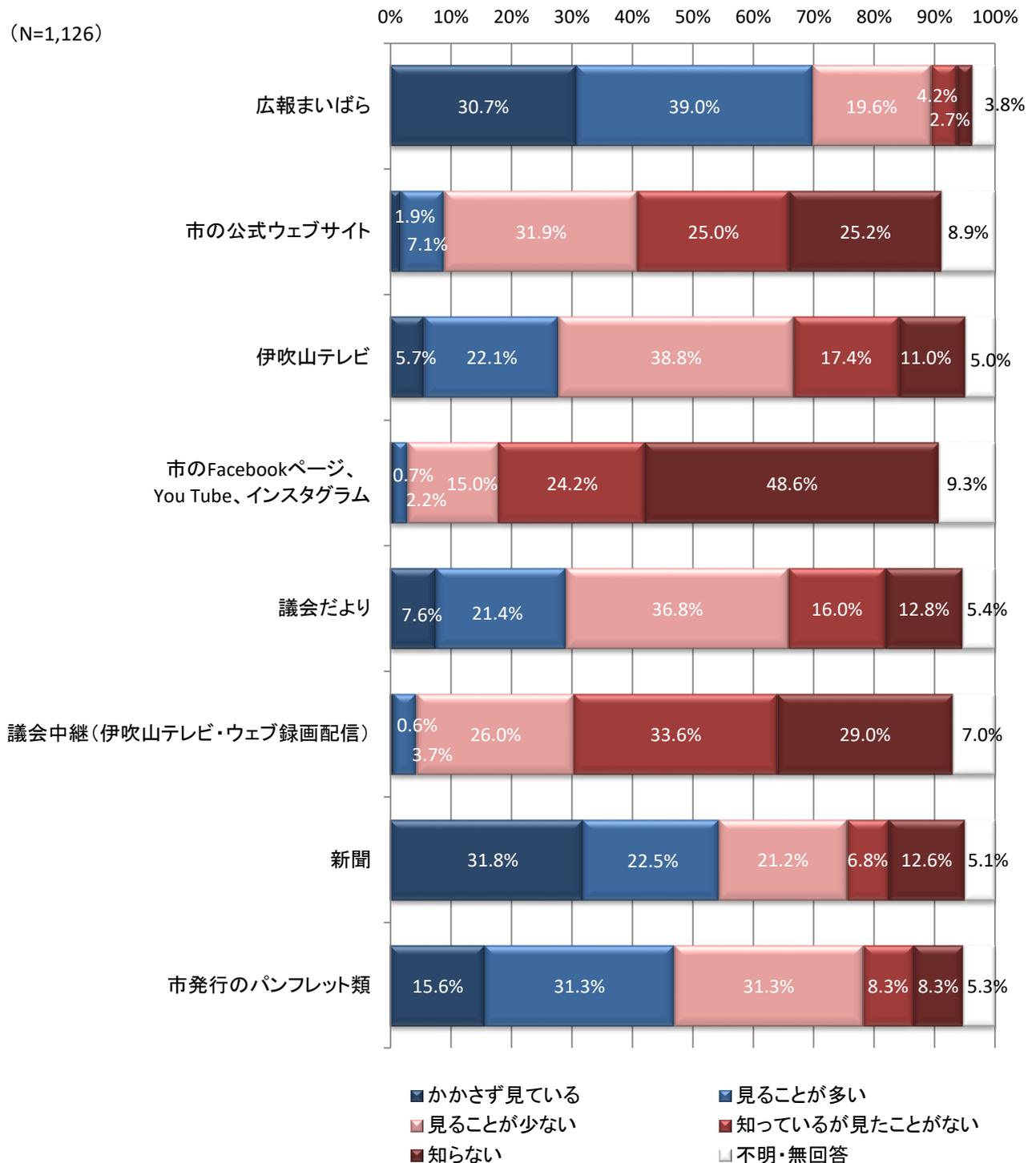


問 34 あなたは、市が発信している次の情報を、どの程度ご覧になりますか。1～8のそれぞれの項目についてお答えください。〈〇はそれぞれ1つずつ〉

市が発信している情報を、どのような頻度で得ているかについて見てみると、「かかさず見ている」が最も多いのは「新聞」で31.8%、次いで「広報まいばら」が30.7%となっています。

一方で、「市のFacebookページ、You Tube、インスタグラム」については、「知らない」が半数近く、情報源として十分な認知を得られていない結果となっています。

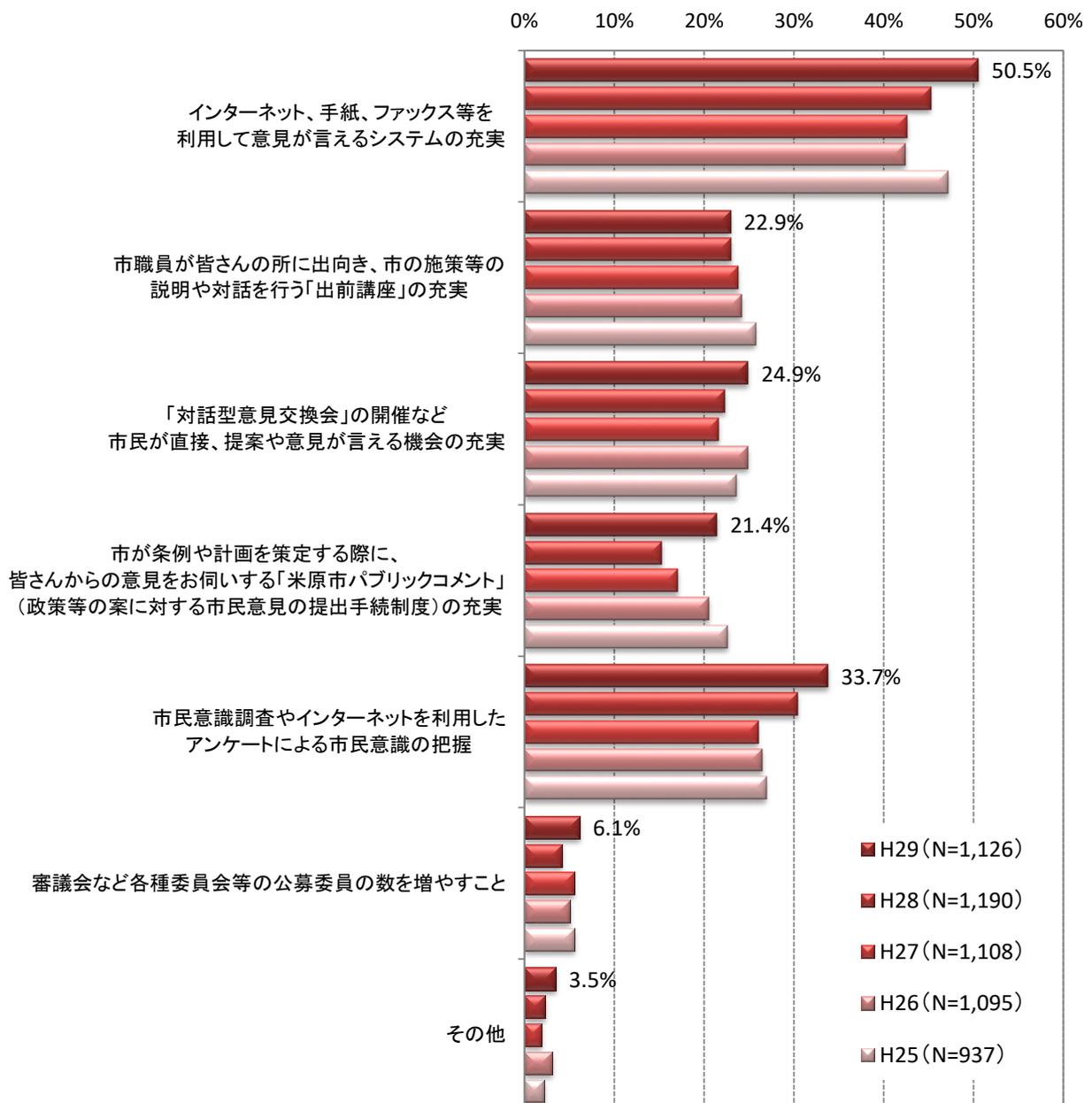
(N=1,126)



問 35 市では、市民の皆さんから広く意見を伺うことができる様々な取組を行っていますが、さらに意見を述べやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。〈あてはまるものすべてに〇〉

市民が市政に対する意見を述べやすくするために必要なことについて見てみると、「インターネット・手紙・ファックスなどを利用して意見が言えるシステムの充実」が50.5%と最も高く、次いで「市民意識調査やインターネットを使ったアンケート調査による市民意識の把握」が33.7%となっています。

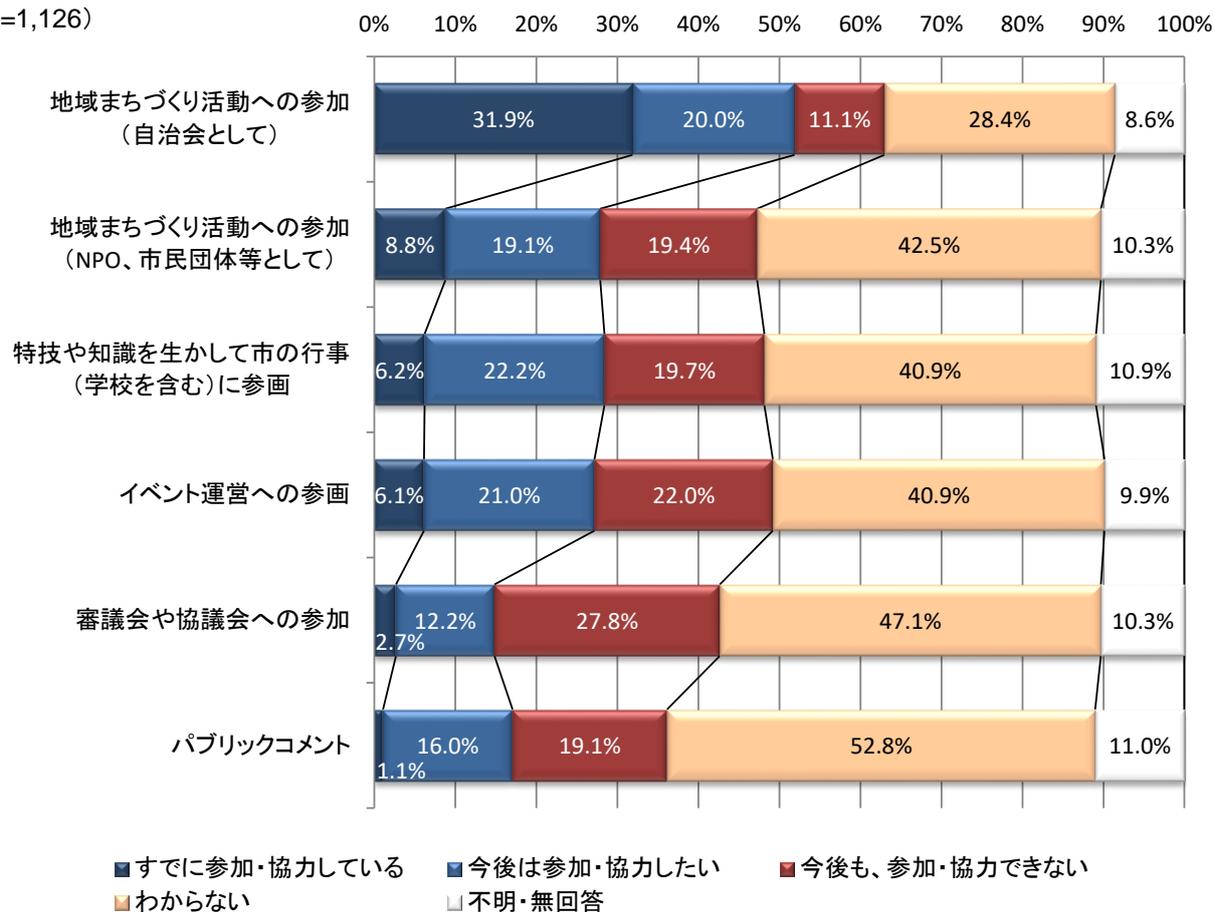
経年変化で見ると、「市職員が皆さんの所に出向き、市の施策等の説明や対話を行う「出前講座」の充実」を除き、すべての項目で昨年度より高くなっています。



問 36 あなたは、市民と行政が協力して行う取組について、これまでに参加・協力したことがありますか。また、参加・協力したことがない方は、今後のお考えについてお答えください。〈〇はそれぞれ1つずつ〉

市民と行政が協力して行う取組についての参加・協力状況について見てみると、「わからない」として回答が多い中で、「地域まちづくり活動への参加（自治会として）」では、「すでに参加・協力している」が31.9%、「今後は、参加・協力したい」が20.0%と、5割以上の市民が取組に対して前向きな回答をしています。

(N=1,126)

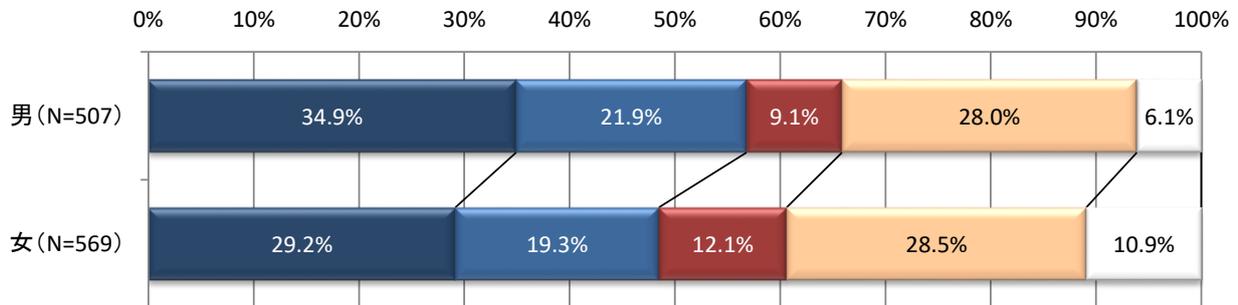


◆地域まちづくり活動への参加（自治会として）

「地域まちづくり活動への参加（自治会として）」について、性別構成比では、男性の方が「すでに参加・協力している」、「今後は参加・協力したい」ともに高くなっています。

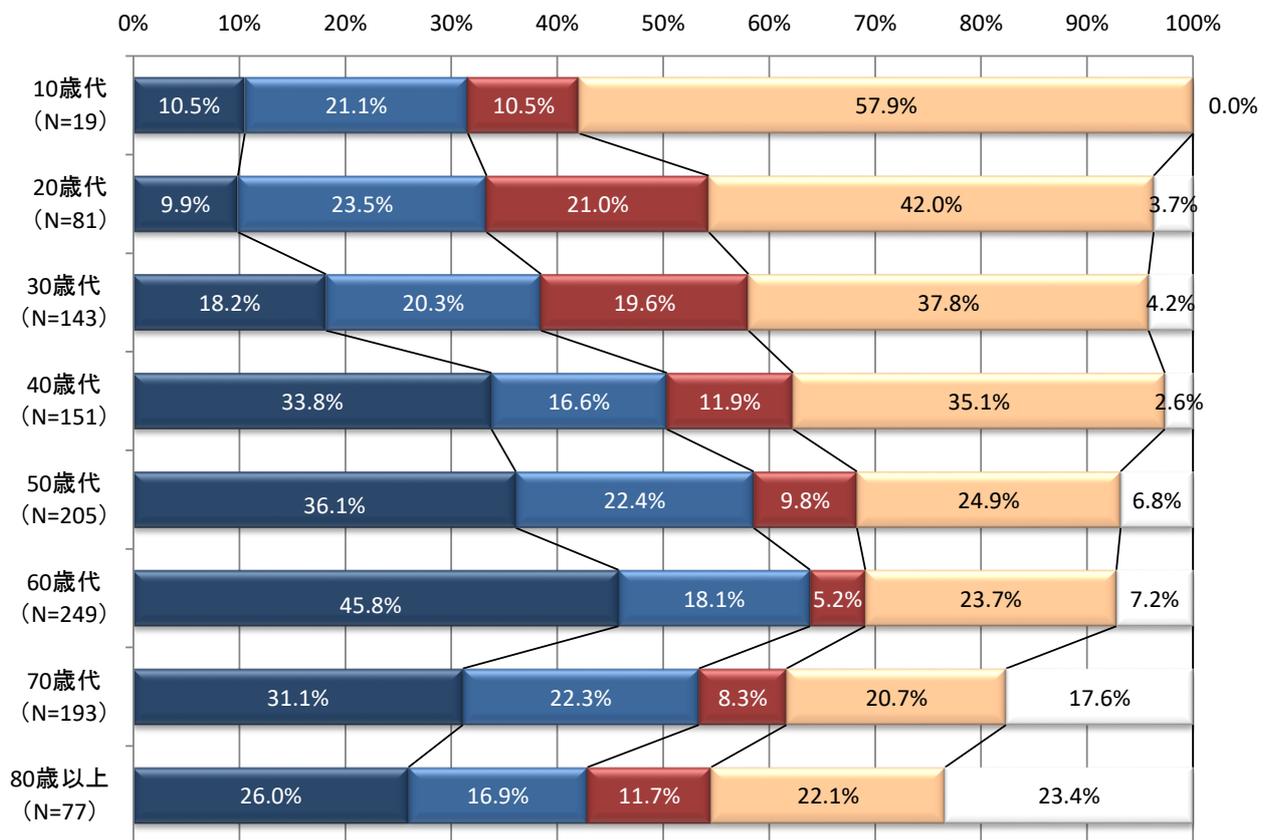
年代別構成比では、「すでに参加・協力している」は60歳代で最も高く、45.8%となっています。

性別構成比



■すでに参加・協力している ■今後は参加・協力したい ■今後も、参加・協力できない ■わからない □不明・無回答

年代別構成比



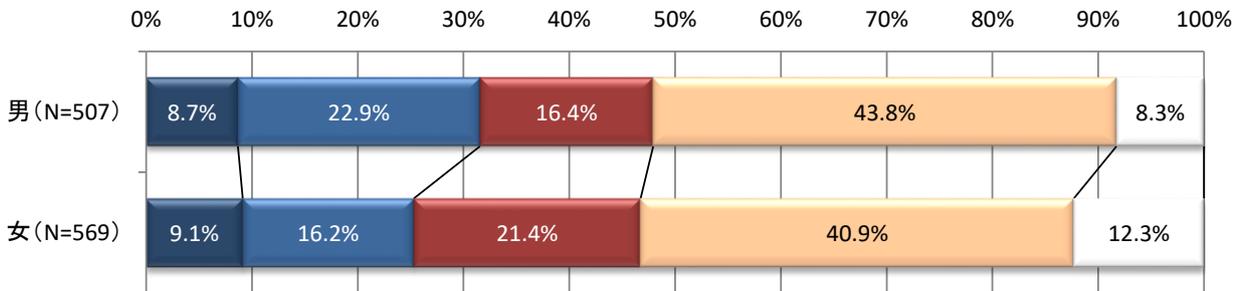
■すでに参加・協力している ■今後は参加・協力したい ■今後も、参加・協力できない ■わからない □不明・無回答

◆地域まちづくり活動への参加（NPO、市民団体として）

「地域まちづくり活動への参加（NPO、市民団体として）」について、性別構成比では、男性の方が「今後は参加・協力したい」が高く、女性では「今後も、参加・協力できない」が高くなっています。

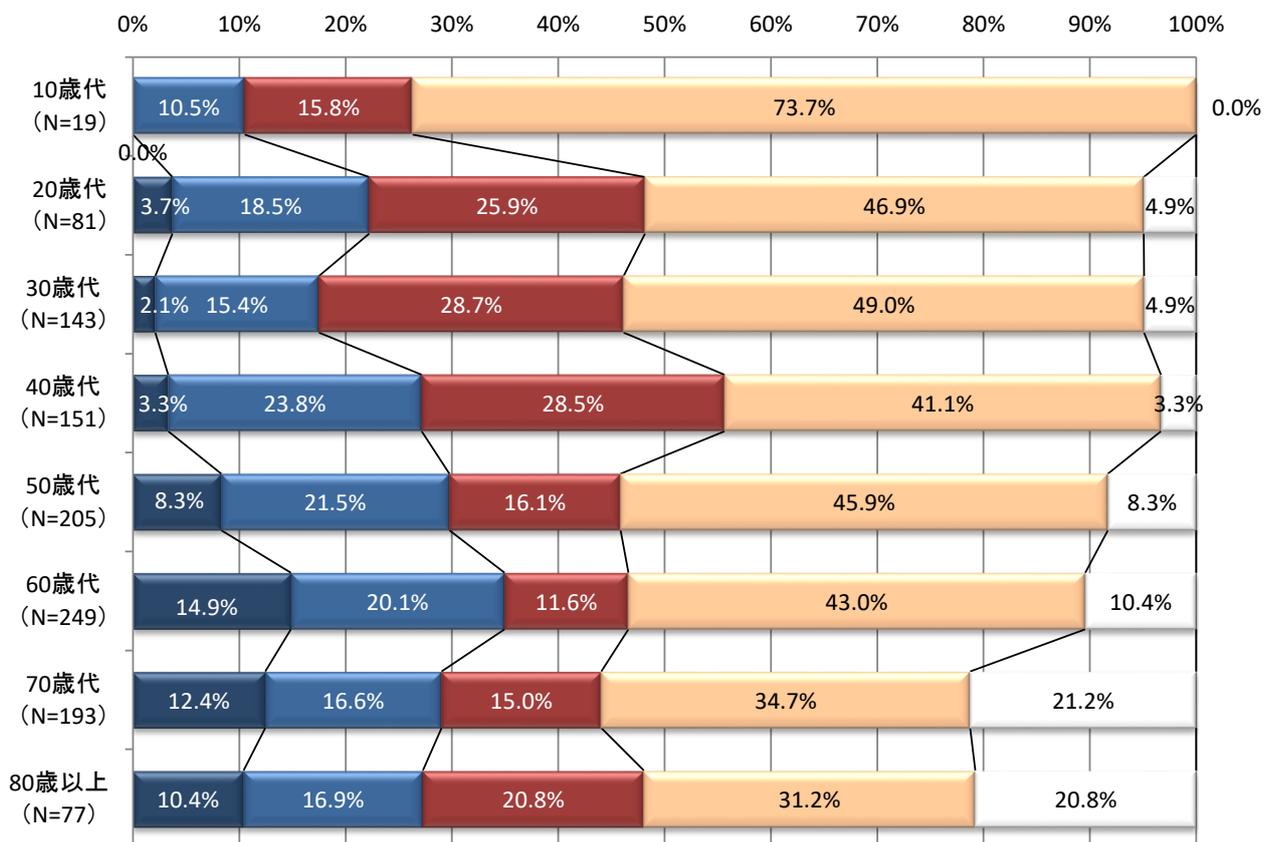
年代別構成比では、40～60歳代で「今後は参加・協力したい」が比較的高くなっています。一方、「今後も、参加・協力できない」は30～40歳代で3割弱と高くなっています。

性別構成比



■すでに参加・協力している ■今後は参加・協力したい ■今後も、参加・協力できない ■わからない ■不明・無回答

年代別構成比



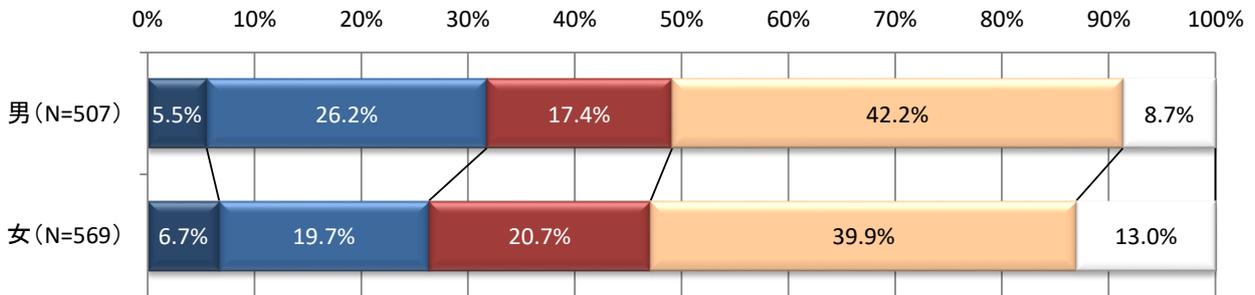
■すでに参加・協力している ■今後は参加・協力したい ■今後も、参加・協力できない ■わからない ■不明・無回答

◆特技や知識を生かして市の行事（学校を含む）に参画

「特技や知識を生かして市の行事（学校を含む）」に参画について、性別構成比では、男性の方が「今後は参加・協力したい」が高く、女性では「今後も、参加・協力できない」が高くなっています。

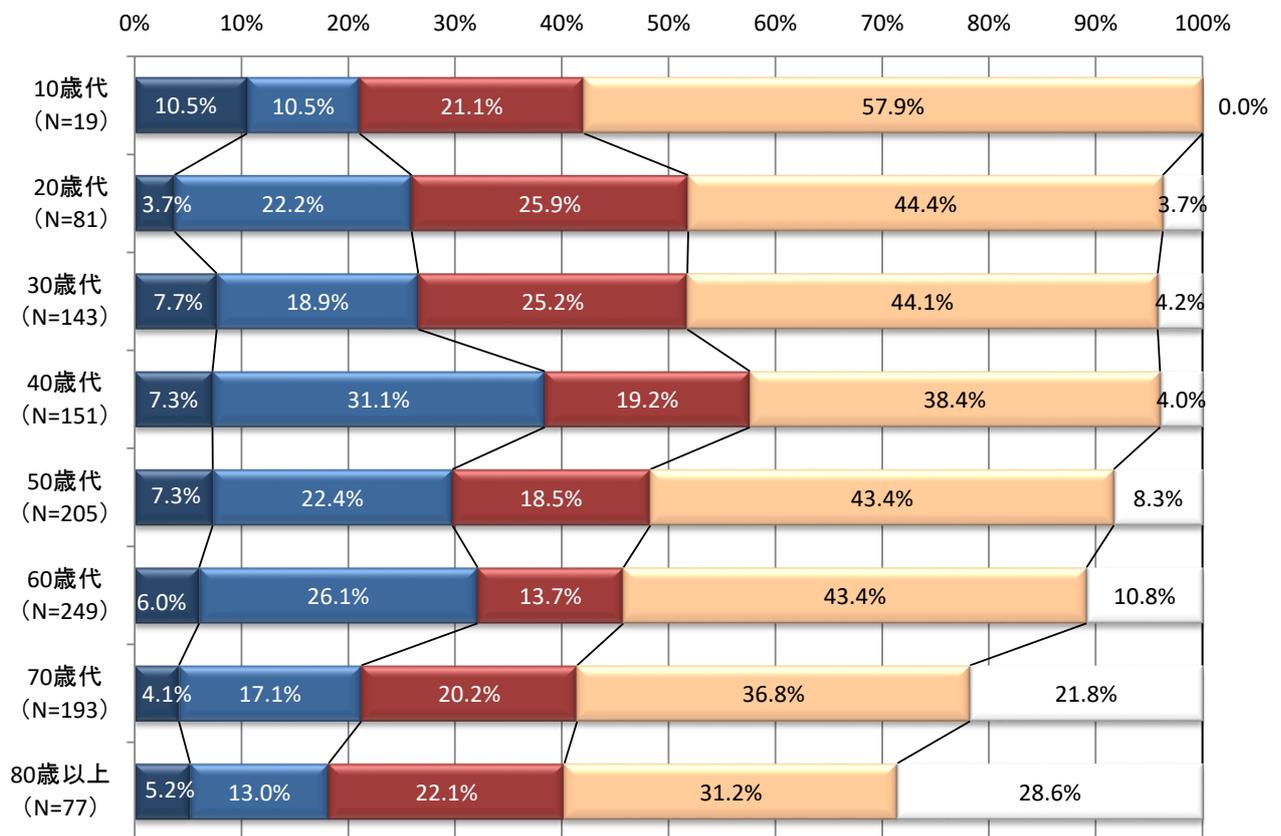
年代別構成比では、40歳代で「今後は参加・協力したい」が3割を超えて高くなっています。一方、「今後も、参加・協力できない」は20～30歳代で比較的高くなっています。

性別構成比



■すでに参加・協力している ■今後は参加・協力したい ■今後も、参加・協力できない ■わからない ■不明・無回答

年代別構成比



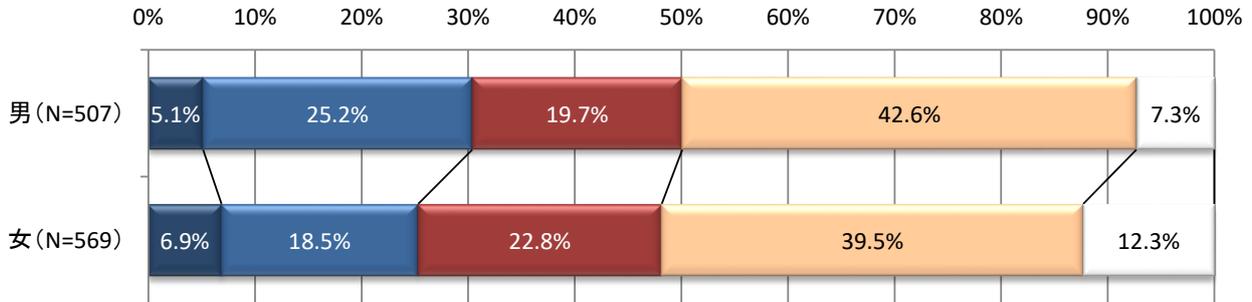
■すでに参加・協力している ■今後は参加・協力したい ■今後も、参加・協力できない ■わからない ■不明・無回答

◆イベント運営への参画

「イベント運営への参画」について、性別構成比では、男性の方が「今後は参加・協力したい」が高く、女性では「今後も、参加・協力できない」が高くなっています。

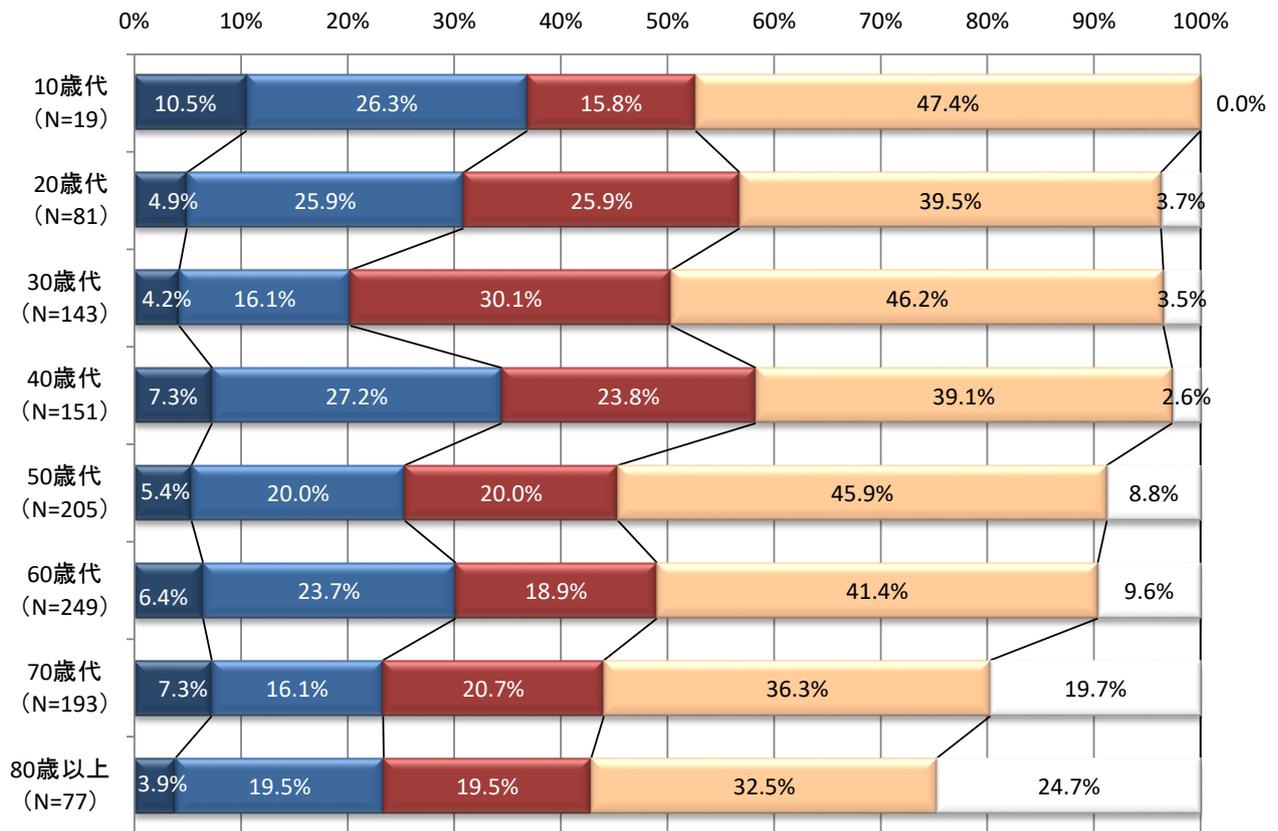
年代別構成比では、40歳代で「今後は参加・協力したい」が最も高くなっています。一方、10歳代で「すでに参加・協力している」が最も高く、「今後は参加・協力したい」でも40歳代に次いで高い結果となっています。

性別構成比



■すでに参加・協力している ■今後は参加・協力したい ■今後も、参加・協力できない ■わからない □不明・無回答

年代別構成比



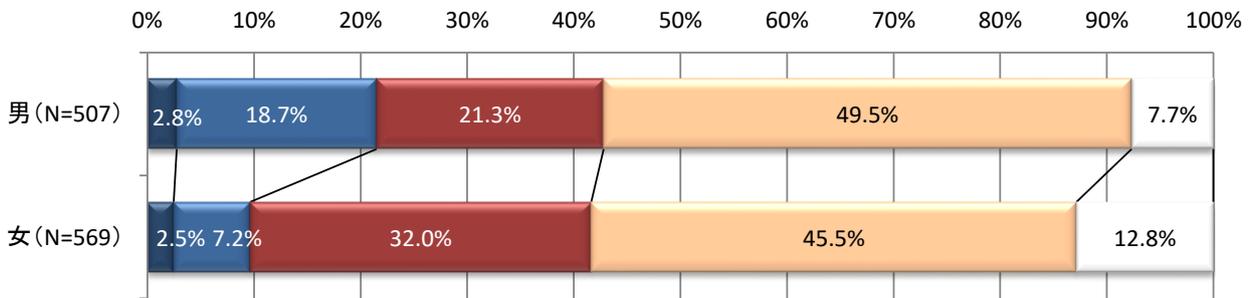
■すでに参加・協力している ■今後は参加・協力したい ■今後も、参加・協力できない ■わからない □不明・無回答

◆審議会や協議会への参加

「審議会や協議会への参加」について、性別構成比では、男性の方が「今後は参加・協力したい」が高く、女性では「今後も、参加・協力できない」が高くなっています。

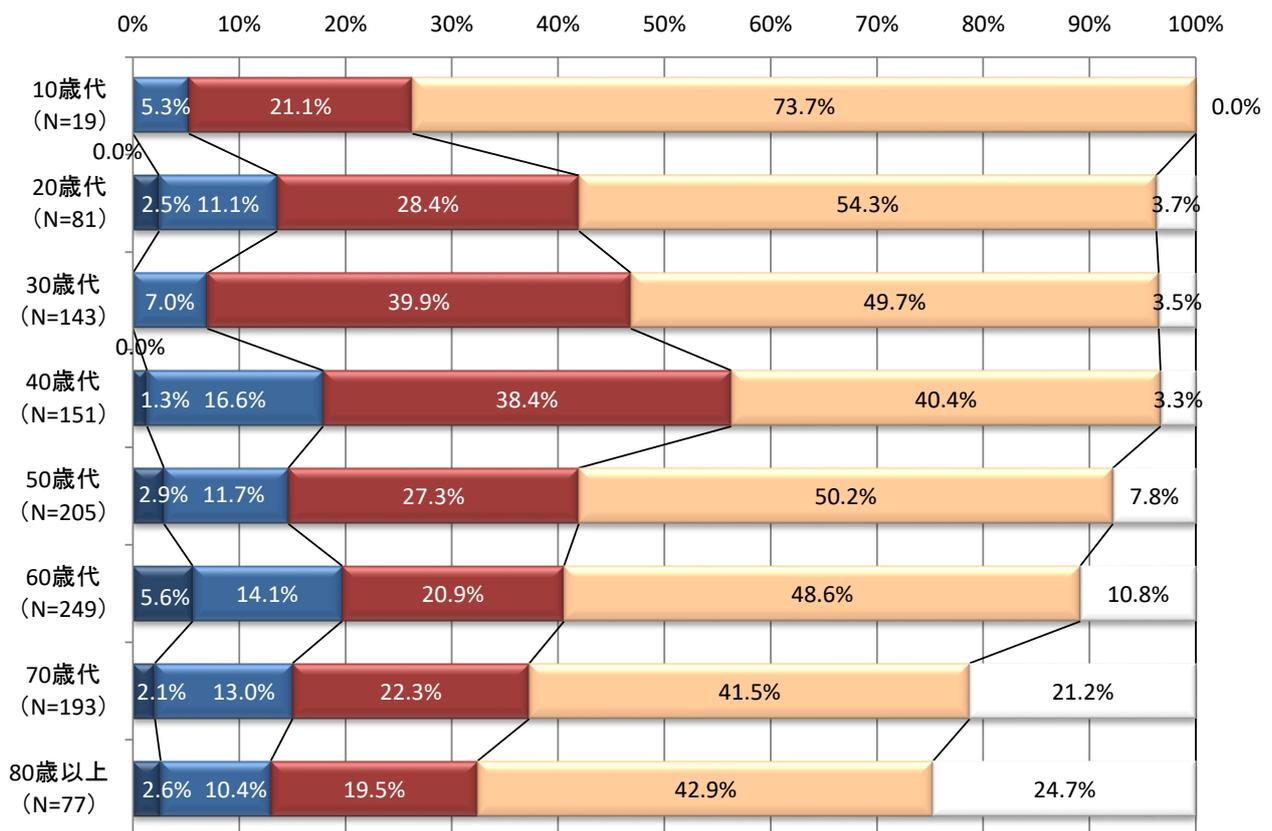
年代別構成比では、40歳代で「今後は参加・協力したい」が最も高くなっています。一方、「今後も、参加・協力できない」は30～40歳代で4割弱と高くなっています。

性別構成比



■すでに参加・協力している ■今後は参加・協力したい ■今後も、参加・協力できない ■わからない ■不明・無回答

年代別構成比



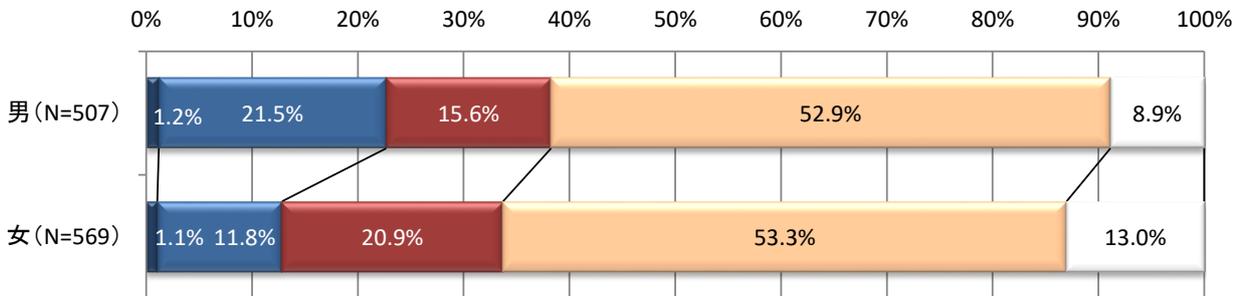
■すでに参加・協力している ■今後は参加・協力したい ■今後も、参加・協力できない ■わからない ■不明・無回答

◆パブリックコメント

「パブリックコメント」について、性別構成比では、男性の方が「今後は参加・協力したい」が高く、女性では「今後も、参加・協力できない」が高くなっています。

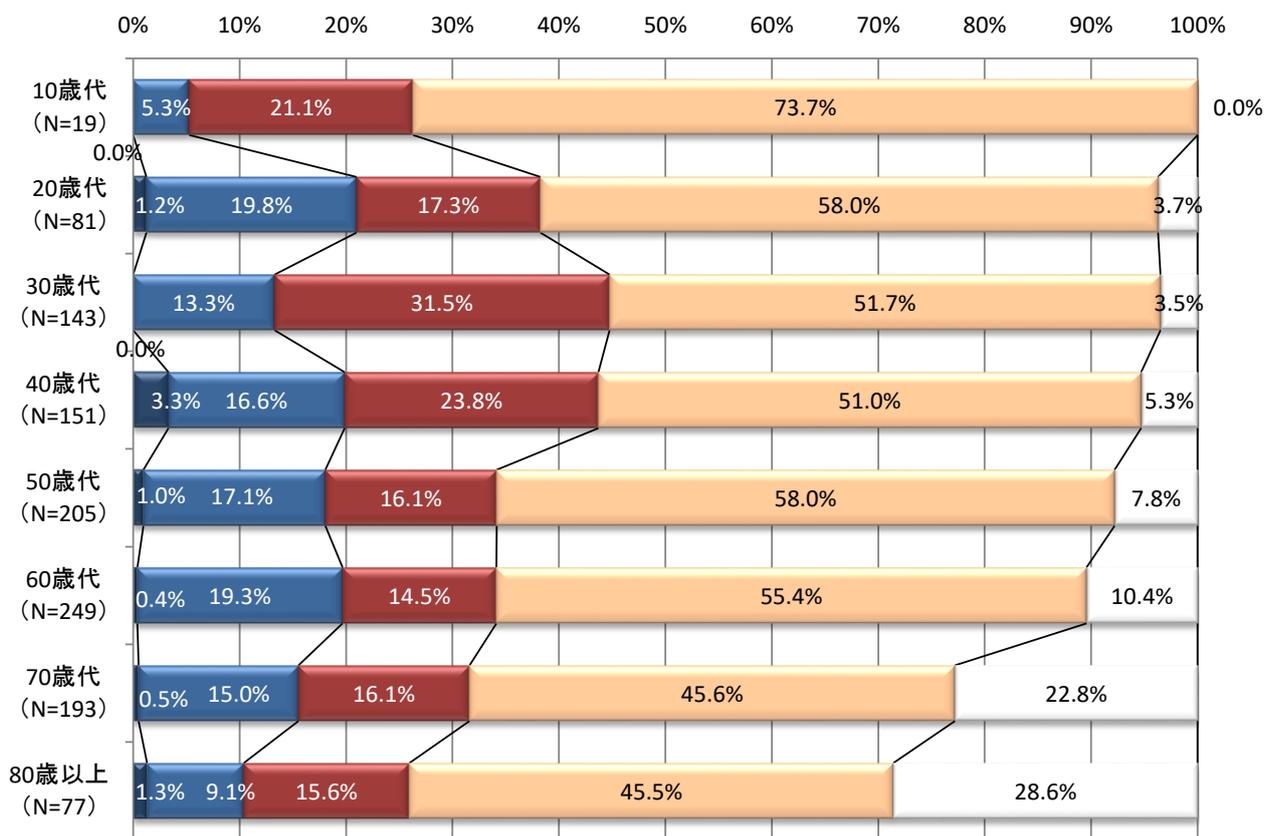
年代別構成比では、20歳代で「今後は参加・協力したい」が最も高くなっています。一方、「今後も、参加・協力できない」は30歳代で3割を超えて高くなっています。

性別構成比



■すでに参加・協力している ■今後は参加・協力したい ■今後も、参加・協力できない ■わからない ■不明・無回答

年代別構成比



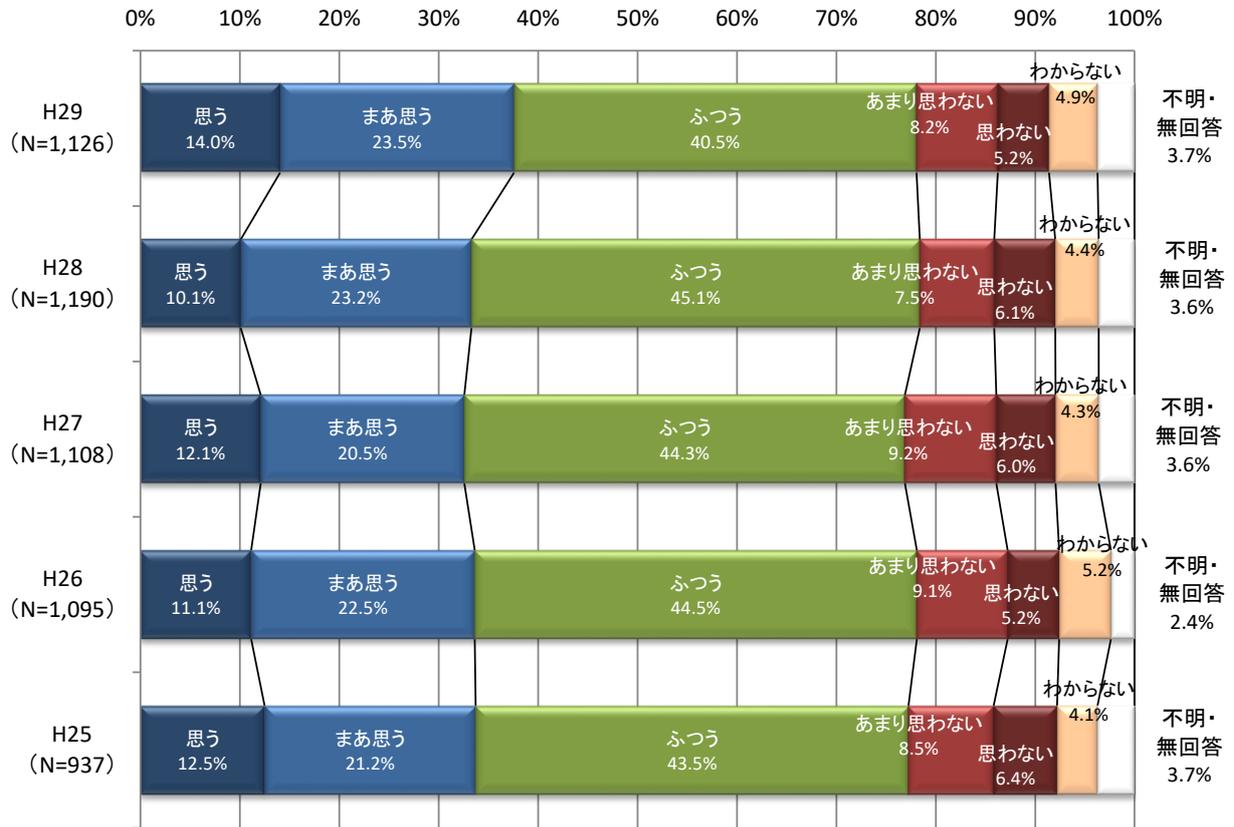
■すでに参加・協力している ■今後は参加・協力したい ■今後も、参加・協力できない ■わからない ■不明・無回答

問37 あなたは、市役所職員の対応はよいと思いますか。〈〇は1つ〉

市役所職員の対応の印象については、「ふつう」が40.5%と最も高くなっています。

経年変化で見ると、よいと「思う」、「まあ思う」市民は平成25年以降3割強程度で推移していましたが、今回調査では昨年度より上昇し37.5%となっています。「あまり思わない」、「思わない」市民は平成24年以降1割強程度で推移しています。

また、地域別構成比では、伊吹・米原地域で「思う」、「まあ思う」の合計が比較的高くなっています。



地域別構成比

